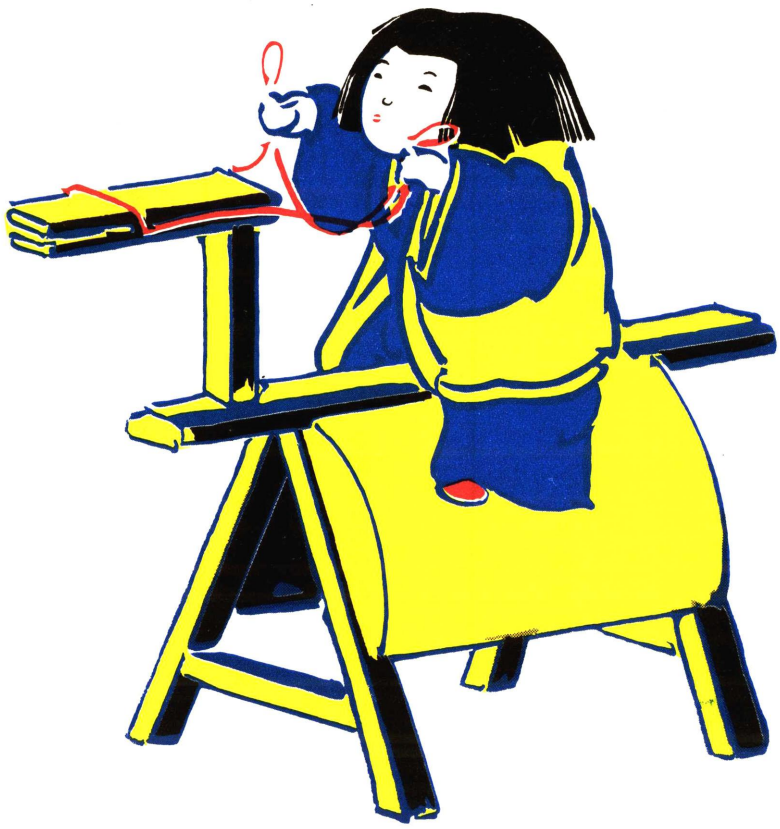


# 幼見之教育



第 一 十 號      十 一 月 號      第 四 十 二 卷

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內  
日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

# 改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 八 錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要とから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園唱歌選集 第二輯

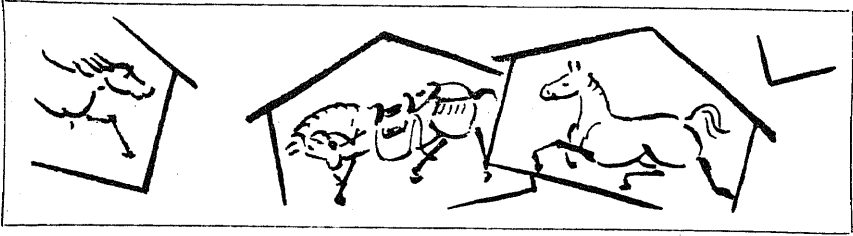
B 列四號二八頁

定價 金壹圓  
送料 金八錢

幼兒の教育 (月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢  
一ケ年 金四圓貳拾錢 送料共

# 大東亞戰爭必勝完遂



## 第四十二卷 幼兒教育の第十一號

—(次 目)—

戰時國民幼稚園(九).....倉橋惣三(一)

現時局下に於ける幼兒保育(三).....倉橋惣三(三)

教養 萬葉に於て日本の感情を見る(十).....石井庄司(九)

十二月の保育

生活訓練.....倉橋惣三(三)

自由遊戯.....上遠文子(四)

遊 戲.....古澤靜子(六)

觀 察.....清水光子(八)

談 話.....志村貞子(一〇)

手 技.....及川ふみ(三)

誘導保育.....菊池ふじの(三)

幼兒の體力競技.....古澤靜子(四)

感じたまゝを.....一保 姆(三)

各地幼稚園だより東京感應幼稚園・今治市昭安幼稚園.....青柳義智代(三)

誌上 講習 兒童心理學(九).....田坂 雪(三)

幼兒の母.....牛島義友(四)

となり組—幼稚園から—戰時家庭教育心得(三)(倉橋惣三)—

子供向きお茶(佐々木理喜子)—十一月の衛生(齊藤文雄)

(翌)

# 生徒募集

明、十八年四月入學の生徒を左の通り募集いたします。  
詳しいことは入學案内にあります。

一、募集人員 一〇〇名

一、願書受付 十八年一月八日より満員次第締切、但し満員締切後の方も豫備員若干名を採ります。

一、入學詮考 女學校の成績によつて入學を許下します。入學試験はいたしません。

一、規則請求 規則竝に入學案内御入用の方は四錢切手をそへて御請求下さい。

東京市淀橋區下落合三丁目一三八八番地

## 東京目白保姆學校

校長 和田實

電話 落合長崎二五五九番

# 戰時國民幼稚園

性 設 建 (九)

倉 橋 惣 三

本土の歴史的大建設はいふまでもないとして、朝鮮半島に、臺灣島に、樺太島に、關東州に、而して滿洲に、日本人の大建設性は由來立證せられ來つてゐる。しかも、我等が今や新たに手につばきして立ち向つてゐる大々建設に對して、更に大々建設性の緊要を忘れることは出来ない。既に帝國の領土となつてゐる地域だけでも本土の數倍を越えてゐる。その他世話を見てやらなければならぬ廣さに至つては、南に北に、蓋し日に日に測り定め難いものがある。之れ皆、日本人の建設力に依つてゐるものである。殊にその風土は、舊來の國民性が育てられ來たつた風土に質を異にしてゐる。その建設力に一段の強を増し、發展を加へなければならぬのである。たゞせば、寒さに耐ゆるさいつても、暑さを厭はぬさいつても、その寒暑共に日本人本來の寒暑を度にして耐え、遂に質を異にしてゐる。これに耐ゆるばかりでない。打ち勝つばかりでもない。その中で著々たる建設がつゞげられ得なければならぬのである。しかも、寒暑の如きは、最も明瞭簡單なる一例に過ぎぬ。ひき口に大東亞共榮圈さひ、北亞同族さひつても、異種の民族、別個の慣習の間にあつての建設である。業の必ずしも容易でないことを知らねばならぬ。それもたゞに、異を厭はず別に耐ゆるばかりでなく、異を親しみ、別を化してのみ成り得る建設である。その建設性も亦たゞに、度を強張せられるばかりでなく、質を擴大せられなければならぬのである。この建設性の強張を擴大し、今日に於て必須であると共に、明日於て一層の必要である。戦争も長期を期してゐる。況んや建設に於ておやである。戦争は或は今日のわれ等によつて引受けるだけで足り、それで充分勝ち抜き得るであらう。建設に至つては、此の大々建設に至つては、恐らくや、われ等は、その基礎を固め、設計を立て、何等か緊急工事を仕上げるに止まるのかも知れない。即ち、われ等だけで建設を完うして、これを次代に譲與するのではない。益々擴がり愈々大きくなるであらう建設の仕上げを、更にその仕上げを、今日の幼きものに肩つぎして貰はなければならぬのである。われ等、今日何んの重きを擔ふこともなく、輕快に嬉戲し、和唱してゐる幼きもの達を見て、その成長の後に引受けて貰はなければならぬ大々建設の光輝ある重責を想見せざるならぬのである。と同時に、その光榮を希望に充つる重責を、堂々として、而して悠々として遂行完成し得る建設性そのものを、幼時から假りにも養ひ足りないうことがあつてはならぬ。心から痛感せずにはゐられないのである。教育者は平時にあつても建設を建設してゆくものである。今日、國民の建設性の建設者として、われ等に負擔せられてゐる責務の重大さは、蓋し測り知り難いものがある。工夫しても工夫しても、尙ほ足りないであらう。

# 現時局下に於ける幼兒保育 (三)

倉 橋 惣 三

## 第四 協力性の教育

この大きな建設をやつてゆきますのに、今でも協力なしには出来ません。一億一心といふのは即ち協力であります。この協力が續くだけにわたつてつゞかねばなりません。また同じ協力が續くだけでなく、發展してゆかねばならぬのであります。將來、協力性のない日本人が澤山出れば、その一人一人に耐久性、建設性があつても國としての大事業をしてゆく事は出来ません。幼い子供に協力性になつてゆく傾向を養つてゆかねばなりませんし、協力性に反する傾向をこめておかねばならないのであります。協力性は今子供等にまつてそれほぎ必要ではありません。耐久性、建設性は生活上、遊びの上に於てよくあらはれることであります。しかし、協力といふ方は今必ずしもさう必要でないかもしれぬ。したがつて、生活の中にこれに反する傾向が多くなるのであります。

協力には二つの方向が分析されます。これを横にながめるに皆協同する事であります。協同性なき協力はありません。協同性とはどんな事かご申しますと、これは全く人と共に居る事、ある事の生活的快感に他ならないのであります。何のために協同するやとは、意味がありさうで捉へにくい。たゞ協同を樂しむ。これはある意味に於ては本能的なものであります。又ある意味に於ては當然な事でもあります。健全なる人間には當然あるべきであります。幼稚園に來る子供の朝の喜びは協同性のあらはれであります。中には變つたのがあつて、「皆より早くこなければ面白くない」「笑聲等といふのもあります」「皆が揃つた頃出かけなければ偉くねえ」「笑聲等といふのがあります。これが大きくなるに講習に遅れる人になる。(笑聲)揃ふのが何もなく人間の愉快なのであります。子供に協同性を感情として養ふのは當然で、これがなければ病的であります。變つてつで

あります。中には、心の中では面白くても協同すること自體の快感が缺如してゐるのがあります。他人が喜ぶから喜ぶといふのは他の意味では雷同であり、輕佻でありますが協同性の點からは積極的性情であります。遊戯を皆がしてゐる時に見てゐてそれに加はらない人がある、これは「私のやうなうまい人があんなわんさ連の中に入つてしてはそのうまさが目立たない、私はスターになりたい」(笑聲) またこの反對に、まづいのを氣にして入らないといふのもあります。何れも協同性が缺如してゐる。

協力が出来るためには先づ協同感情が必要であります。幼稚園ではよく親が別扱ひを要求することがあります。そして、「お宅のお子さんは他のお子さん少し違ひますね」  
「こいはれるまよろこんでゐる、あからさまに」お宅のは變つてゐますね、をかしいです」  
「こいはれ、ば怒るのでせうが。下に變つても上に變つても協同感情の上ではいゝ事ではありません。これは調子を下げることではありません。隣が眠たから私も眠るこいふのはありませんで、隣の人  
が眠つた時は此方も眠つたやうな顔をして眠ないでゐるな  
まこいふのが味のあるまころであります。(笑聲) 先達、あ  
る地方に講演に参りましたが、その時司會者がいふには、  
「暑いここでもあるし、皆さん眠からうが、折角東京から來  
たのだからよく聞いてくれ。それに近頃は潜水艦も現はれ

るから」ここれはまあ舟を漕ぐま危険だこいふ事を面白く  
いはれたのですが——。(笑聲) そこで私はかう言つた、「司  
會者の御言葉は誠に有難いが、私は反對の意見である。眠  
るのならみんな眠てもらひたい。(笑聲) 一人でもおきてゐ  
るま話をしなければならぬから皆ねて下さい。(笑聲) 皆  
がねたら私もねる。(笑聲) 皆ねたまころで一人だけ起きて  
ゐるのはをかしいです。ここによるま掬摸の親方かも知れ  
ない。(笑聲)

これはねむ氣がましにすぎませんが、希くは上へ協同し  
たいものです。人のよきに、高きに協同したいものであり  
ます。しかし、不運で低き人まゐるのなら地ならしされて  
も仕方ありません。高き人のそばにゐたいこいふのは別の  
話であります。

幼稚園にはよく遊戯に入らない子供がゐます。私達はそ  
の子を叱る。その叱るのは健康の爲ではありません。「あな  
たの健康によくない」こいへば子供は「それではあつちでや  
るよ」(笑聲)こいふでせう。「何故皆が踊つてゐるのにあな  
たは踊らないでゐられるのか」こいふのであります。歌でも  
同様、人が歌つてゐるのに黙つてゐるこいふのは不思議で  
あります。私は歌は下手ですから一人では歌ひませんが、  
人が歌つてゐる時は一しよに黙つてゐるのををかし

い。そこで人三一しよに歌ひます。歌へない時は口だけ動かしてゐる。(笑聲)金魚唱歌といひます。(笑聲)子供の中には思ひつきり調子はづれをするのもあります。我こゝにありこいふ工合に。(笑聲)これは全體三一しよになるよりも全體の中における自己が別に認められる事を要求してゐる姿であります。これはそれ程深い意味があつてのこゝではありませんが、日本人が同じ歩調に歩けないさなるこゝの時局に一しよにゆく事が出来ません。協同するさ愉快になるさいふ性格の質は缺くべからざるものであります。もし幼稚園の中で先生が協同してゐなかつたらさうであります。「我組は我組にして他の組は他の組なり。他の組に負けるな」(笑聲)これでは幼稚園に来て、子供は社會形態をさりつゝ、社會感情が阻害されてしまひます。

協力を分析して二つになるさ申しましたその一つは、進んでゆくさいふこゝであります。協力も亦目的に向つて進展するこゝであります。今、統制さいふこゝがしきりにいはれますが、上から統制する必要があるさ考へられるのは日本人に協力が足りないのでありませうか。時局認識に於て、目的に向つて協力するならば外から上から、統合しないでもよいのであります。今日多く行はれる統合政策には反對しません。實に大事でありますが、これは協力出来

ぬ人間に必要なのださ思ひ、政治上必要で、教育上殘念なこゝださ思ふのであります。この、目的のはつきりしてゐるこゝの協同に、外から力を加へねばならぬさいふこゝは誠に殘念な事であります。

日本人、實に火の玉さならねばなりません。それでなければ勝ち抜けぬ、押し切れぬ現時局であるさすれば、目的に向つて力を合せるこゝは協同の快感さは又別でなければなりません。これを保育でさうするか。協同作業、誘導保育がこれであります。協力の必要を説いて、しからば協力しようか、しなければならぬね、(笑聲)さいふ事をわからせるのは子供には難しいのであります。保育は腕押しではありません。向ふに、それが出来るか出来ないかの條件がある。皆を集めて、一つ目的に向つて協同してくれないか、さ説きつけるこゝは出来ませんし、さういふ事で協力の必要が感じられて協力が養はれるこゝは限りません。子供は實に、自らなる協力をしば／＼やつてゐます。先生が子供に協力する、子供が先生に協力する、或は子供同志協力させるのであります。理窟や必要を説く事なく、この生活をしば／＼やり、その後で、「一人ちや出来なかつたね」さいふ感情をしば／＼味はせるのであります。元就の話は協力の一つの大きな訓誡法でありますが、あの方法の解釋は幾つも出来ません。私の感心するのはうまい例をさつてやつた



なさいふ點だけではありません。あの例は元就がはじめて發明したものではない、元就より前に他の國にも同じ話があります。私の感心するのは、あの矢を折らしてみたことそれであります。協力の効果を説いてから後やらしてみたのではない。一緒にするに折れないな、さいふ経験の後の感じ、これが元就のこつた教育的順序であります。「今日は協力デー、さあ皆で協力しませう」(笑聲)さいふので協力の爲に何かして、はい、御苦勞様さいふのでは駄目であります。協力形態を此方で先にさるのであります。そして後でそれさなく、協力の効果を感じる。幼児教育はこれであります。

さて、この協力の生活を養ふについて、子供の中にかういふ子供があつたら注意しなければなりません。傍觀的、批判的態度、協力しない、手を借さない、離れてみる、かういふ子供はいかんであります。かういふ子供は知能がある方面では發達してゐる。従來、知能が發達してゐるさいふ事を生活から遊離して發達してゐる事にいひますがこれはさんでもない事であります。生活の中に渾然として發達してゐなければなりません。坊ちゃん嬢ちゃんにかういふ子供が澤山あります。親からみるに、わい／＼連でなく、又偉さうな事を言ひますから偉さうにみえますが協力

は出来ないのであります。これは今の時局に必要な國民ではありません。又これと違つて至極氣のつかない、ほんつく態度(笑聲)淡い態度があります。重い荷物をもつてゐる相手に氣がつかない。大分行つてから「あなたお荷物がありませんでしたか？」(笑聲)氣がつかないさいふのは傍觀的批判的態度より罪が少いのであります。協力性缺かさいふ點に於てその生活を批難出来るのであります。協力したくてたまらない、せずにはゐられないさいふやうにならなければなりません。まして傍觀的批判的態度は實に唾棄すべき性格のあらはれであります。これは後に餘程揉まれぬ限り改め得ない性格であります。この傍觀的批判的態度の快感を味はつたさなるさ濟度すべからざるものであります。かういふ子供には全力を盡してその惡癖を除かねばなりません。これが除かれただけでその保育が時局に及ぼす貢獻は大きいのであります。何故その子が傍觀的批判的態度になるかご申しますに、多くの場合、親の傍觀的批判的態度が子にうつつてゐるのであります。

先程、坊ちゃん、嬢ちゃんに多いご申しましたのは、その親が家庭で女中や、出入の人に對して傍觀的批判的態度をこつてゐるからであります。八百屋が汗をかきながら西瓜を持つてくる。子供はすぐ駈け出してきて受けさらうとする。あの丸い重いものを運ぶのが楽しいさいふ心ですか

ら水火も辭せずやる。(笑聲)するごお母さんがそれをこめて、「あなたはそんな西瓜を運ぶなごいふごに協力すべきではない。内閣に列した時に閣僚互に協力すればいいのです。(笑聲)なごいふ。もつご恐ろしいのは、教育者が教育を受けてゐる相手の中にながら實に傍觀的批判的態度をまつてゐる者が多いごいふ事であります。「集れ、集つたか。竝べ、竝んだか。歩け、私はこゝにゐる」(笑聲)幼稚園で子供がよく先生をさそひに來ます。「先生、砂場して遊びませう」するご先生は、「あなたごいふごに砂場をしてゐるは他の人の監督が出來ません。ごめんなさい」(笑聲)所謂先生の態度、子供がまた先生になるのならそれでもいいでせうが、時局に兩肩を入れて行く人間であります。

先生は何時でも子供ごいふごに遊ばなければなりません、同時に子供ご共に一しよの仕事をしなければなりません。やたらに子供に手を借してはいけない結果もおこりませんが、はやく先生になりたい、はやく見てゐる方になりたいごいふ結果を影響する、ごは更にいけないごであります。先生の傍觀的批判的影響が子供に及ぼす恐るべき結果を思ふのであります。

協力ミは目的に向つて力をあはせ、進むごであります。協同ミ協力の動き方が問題であります。足弱の人ミ足

を合はせて歩く、相手の爲でなく、此方の爲にあはせて歩くのは容易ではありません、しかも進まねばならぬのであります。目的に向つてゆく、協同し、協力してゆくののであります。今日第一に肝心なのは目的に向つてゆく事であり、身して行く態度、これは大切なごであります。子供のうちにこれの出來る子供ミ出來ない子供ミあります。人の先に立つて人を引つばつてゆく子ミ、人の後からでなければゆかない、いつも人の後をついてゆく子ミあります。殊に日本の女の教にはこれがあります。これは平時に於ては誠に麗しいが、戦時にこれですむでありますか。協同である。協力であるだけではすまぬのであります。横には協同ですが、挺身態度、これを養はなければなりません。「誰かこの中で先にやるものはあるか」ごいふごであります。おくれず進まず我協同す(笑聲)これでは進まぬのであります。挺身性を十分に具へたる協力、こゝに新たな問題の意味を考へたいのであります。

## 第五 情味教育

私の思ふごころでは、何も時局だからごいつて教育目的が根本から變るわけではありませんが、現時局の根本から考へて、皇民性なき子ではごうしやうもない、耐久性なき

子の頼りなきこゝ、建設性なき子の頼もしからざるこゝ、協力性なき子の役に立たぬこゝ、何さうではありませんか。しかし私はたゞこの四つが大切であるを客観的に考へてゐるのではありません。子供をみるに、さうなつてもらひたい、もらはなければならぬといふ感じであります。もし一人でもかゝる子供がゐれば貴女方に耐へられない、「こんなこゝで時局下の保育が出来るか」といふ感じでありませぬ。貴女方は個性教育をしてをられると思ふが、子供により個性教育をしてゆく場合、この時局下他の事はそんなに完全無缺でなくても我慢してもらふ。けれどもこの四つのことだけは仕上げずにおかないといふ此方の目的なら、幼児觀察の標的をこゝにおく事が出来るのではないでせうか。これを標的にせよと強いるわけではありませんが、この四つを目的としてこの四つがなければ何さかこれに集中してやつてゆかうとする。漠然となく標的を決めてその缺けたるを國の爲に憂ふるといふゆき方になるのではないかと思ひます。

この意味で、大事な、そして強く求むるもの四つをあげたのでありますが、これを「すかはずはつて、「戦時下の幼児保育」といふ題の下で考へねばならぬ事があります。今申して來たいろく、な事を性格の中に啓培しようと思ひますが、時局はまた子供にかゝる事をすゝめてゐるのであります。

耐久性、建設性、協力性を時局が養つてゐるのであります。今までは協力性の足りなかつた母親が隣組に入つてゐるではありませんか。今までは耐久性の足りなかつた母親が古い物を出して來て繕ひ物をしてゐるではありませんか。まして戦から與へられる教は皆、この四つの事によつて出來たといふ事ばかりであります。軍神加藤少將のあの皇民としての忠義な御心、そんな苦しさに耐へられるあの耐久性、部下を愛されるあの協力の心、しかも常に率先敵に向はれるあの挺身、實に、皇民、耐久、建設、協力、(挺身)この四つの點に分けられる方が我々の眼前に良い教を與へて下さるのであります。時局はかゝる教育に好都合であるといへるのであります。しかしこゝに一つの問題がある。

何さいつても戦をしてゐる、多忙であります。力づくであります。今日の時局にそふといふ教育の他に、時局下においておこるであらう缺陷——といふのは大きすぎるが——に潤ひを與へなければなりません。そつと、こまやかに、かげながらその子の情操を大事にしてゆく事は、我々の任務だと思ふのであります。先に述べた四つの事は教育目的として大きな聲でいふ事でありませぬ。國を憂ふる者の貴女方に頼んでゐる事でありませぬ。今日この大きな目的はあなただけが持つてゐるのではない、國の大きな目的を

身に體してやつてゐるのであります。しかし、大きく國を憂ふる人、子供に接しない人は、幼い頃情操を養はれずしては將來養ふ事が出來ぬことは感じてゐないのであります。

子供の息が、心が、皆さんには通じる。そこをそつこしてやるのです。お砂糖は勿體ないといひながら年下の子供には半匙多く入れてやるお母さんが多い。こんな時局程、皆さんの、子供の傍についてゐるこまが大切になる時期はないのであります。しかも情操は決して戦時と對立するものではありません。箆筒にしまつておいて、戦後おめにかゝるものではないのであります。戦をしながら、敵を憐む日本の兵隊さんであります。飢ゑてゐる敵地の子供に自分のビスケットを與へる兵隊さんであります。戦場で白い花を折りがてにする兵隊さんであります。耐久、建設、すさまじい勢で進みつゝその中に情操を織込まれ得るのであります。情操が銀の皿の上におかれる場合もあるが、かけ茶碗の上におかれる場合もある。歌に女郎花さかけ茶碗を結びつけた人があります。薛繪の器でなければならぬといふ時代もあり、またそれでもよいのでありますが、砲彈のかけらに挿してもいゝ、いゝごころかその方が味が出るではありませんか。こんな事を他の集りでいふと笑はれます。ですから私は他ではこんなこまはいはない、先の四つのこまだけ述べておけばよいのであります。しかしこまでは子供

こまによにゐるあなたがただからこのこまを申すのです。情操なき皇民、耐久、建設、協力、(挺身)のみでは力こまなつても性格こまならないのであります。薬を飲むにも水こま一しよに飲むではありませんか。情操と共にこの時局認識が融けて入つてゆくのでなければ本當の性格は出來ません。これは情操の遊びでも戯れでもありません。しかし、先の大切な四つのこまを忘れて情操のみに浸つてゐる方があれば、それはおはなしになりません。

青年學校でも、海軍兵學校でも、陸軍士官學校でもこれは皆やつてゐる事でありまして。こまをやるのが幼稚園ではない。幼稚園は保育の中でそれをやつてゐるのであります。耐久性、建設性、協同性さぎうくやるのはありません。「お早やう」さひ、鼻が出てゐればかんでやる。これが先であります。この保育の中で、この四つの事が出来るのであります。この四つの事をする爲に始めた幼稚園であります。毎日の生活は保育であります。保育はあなたと幼児との情緒的觸れあひ以外にない。この保育でこそ、この四つの事も出来るのであります。情操の世の中のでこれが出来るのである、あなたの優しみの中ので来るのであります。前の四つこまこれと對立すべきものではないのであります。

以上で私の話を終ります。(六)

# 萬葉に於て日本の感情を見る (十)

東京女子高等師範學校教授

石 井 庄 司

## 八、しめやかな愛情

我が背子せこはいづく行くらむおきつもの名張の山を  
今日か越ゆらむ

此の歌は、萬葉集卷一にあるもので、當麻真人たづまのまひと麿の妻が、旅に出てる夫の身の上を偲んで詠んだものであります。名張は、三重縣伊賀國名張郡の山で、大和の初瀬から伊勢に通ふ道筋で、都が大和の南部即ち飛鳥地方にあつた時代には、東國へ通ふ重要な道路でありました。「おきつもの」は名張の枕詞で、その意味は古語の「かくれる」「さいふ意の」「なばる」から沖の方に生えてゐる海藻の底深く隠れてゐるさいふやうにまつたものであります。一首の大意は、わが夫は今ごろはぎのあたりを歩いて居られるでせうか。伊賀の名張山の邊を今日あたりは越えて居られるでありますかといふので、夫の留守にある妻の心情が、言外に溢れて居ります。「いづく行くらむ」「さいひ、また」「今日か越ゆらむ」「さいふらむ」の繰返しは、何となくいぢらしい感情を起

させます。しんみり三旅の夫の身のまはりに思をやる妻の情がよく出てゐるのであります。

一體、この歌に詠まれてゐる夫の旅行は、都へ歸へるのか、それともこれから出かけて行くのか、どちらであるかさいふさいふここが問題になります。「行く」さいさいいつても、家路をさして行くここ、即ち歸郷さいさいここにもなります。歸郷ききょうさすれば、もう明日か一明日は我が家に到着せられるさいさいふので、待つ人の歸り来るよろこびの情こころもなるのであります。私は一首のひびきから考へて、昨日あたり我が家を出て行つた夫のここを思ひやつてゐるので、これから更に長い旅路を控へてゐるさいさいふやうに解ときたいと思ひます。そこにじんじんみりみりした、しかもまた細やかな愛情の溢れて来るここを感じるのであります。

當麻真人麿の妻のこの作は、萬葉集の卷四にもう一度重ねて載せてあります。卷四の方では「伊勢國に幸ゆきせる時」ここあり、天皇の伊勢への行幸に伴して行く夫のここを詠ん

だごこになつて居ります。かういふ重載ごいふごこは、萬葉集の編纂上の偶然の結果ご思はれますが、しかし一面からは、當時においてこの作が高く評價され、いはゆる人口に膾炙してゐたものであるごいふ證據にもなるご思はれます。歌ごしてもまごこに勝れた作ごいふごこが出來ます。そしてこの中に歌はれてゐる人の情が如何にもやさしく、正に日本的ごいつてもよからうご思ひます。

夫の上を思ふ妻の至情ごいふものは、ひごりこの常麻麿の妻だけに限らなかつたご見えて、萬葉集には同様の歌がいくつか載せてあります。

朝霧にぬれにし衣ほさずして一人や君が

山道越ゆらむ

これは作者は詳でないごありますが、やはり伊勢國へ行幸の折の作で、女性の歌であります。朝の霧にすつかりぬれてしまつた着物を乾かすごこもせず、うすら寒い山路を一人で越えて居られるごこであらうご、深く同情して詠んで居ります。「朝霧にぬれにし衣ほさずして」ごいふやうな細かいごころに思を馳せてゐるのは、正に日本女性の美點ご感歎させられます。

たまかつま島熊山の夕暮にひごりか君が

山道越ゆらむ

いきのをにわが念ふ君はごりがなく東の坂を

今日か越ゆらむ

二首ごも作者未詳の卷十二にある作であります、歌ひ振からいつて、やはり女性の作であり、夫の留守に詠んだものご思はれます。しめやかな感情ではありますが、ごご人の心の底にまでひびくものを持つて居ります。

吾が背子を倭へやるごさ夜ふけてあかごさ露にわが立ちぬれし

二人行けご行きすぎがたき秋山をいかにか君が

ひごり越ゆらむ

この二首は、天武天皇の皇女である大伯皇女が自分の一人の弟を見送られたごきの作であります。當時、大伯皇女は齋宮ごして伊勢にお住居でありました。そこへ御弟の大津皇子が遙々伊勢までお越しになり、御姉上に御面會の後、お歸りにならうごするごき、詠まれたもので、弟を思はせ給ふ御姉君ごしての細やかな愛情に讀者は強く泣かされるのであります。夜更けてごつそりごお發ちになる弟君を見送るため、長く外においてになりましたので、「あかごさ露にわが立ちぬれし」ごあります。また「二人行けご行き過ぎ難き秋山」ご當時の伊勢ご大和ごの交通路の難澁を思せる言葉ごあります。そこを「いかにか君がひごり越ゆらむ」であり、殆ご常麻麿の妻の心情に似たものを漂はせてゐます。當時の一般の女性の心情をこゝに遺憾なく示されて

るものと思ひます。

わが背子が着せる衣の針目落ち入りはりめにけらしな  
わが情こころさへ

萬葉集卷四に「阿部女郎歌一首」して載せてあるだけで、この歌の事情に就いては何の記載もありません。ただこの歌の次に中臣朝臣あつまひ東人あづまひといふ人が阿部女郎に贈つた歌さいふのがあり、また阿部女郎の答へた歌があります。さういふ點から考へて、この歌も中臣朝臣東人に贈つたものか考へられます。「着せる」は敬語で、「身に着けておいでになる」さいふ位の意味。わが夫が身に着けておいでになる着物の縫目の一針々々漏らすことなく念を入れて縫つてあつて、定めし我が情も深くこもつてゐるであらうさいふのであります。しめやかな愛情の中に實にねばり強いものを感ずるのであります。

今年ことしゆく新防人にびさきもりが麻あしころも肩のまよひは

誰かたれさり見む

「まよひ」は、衣服の使用の久しきため縫目のあらくなつて、破れてきたことをいひます。防人に出かけて行きますと、身の廻の世話をするものもありません。そこで定めし不自由をして居られるであらうと思ひやつたのであります。

前の歌さいひ、今の防人の歌さいひ、共に今日の皇軍の勇士たちへの心情を考へても少しも差支のないものであり、

古今にわたつて變らぬ日本女性の心情の尊さであります。

かういふ氣持を一層率直に述べたものにして防人の妻の歌が傳はつて居ります。

草枕旅のまるねの紐たえばが手さつけろ

これの針も！

武藏國出身の防人の妻で、椋橋部くはしへのせま弟女あづま名まで傳へられてゐます。まことにやさしい心遣ではありませんか。萬葉時代には草深いころの一田舎であつた武藏野に住む女性の心が今もなほ生きてゐるのであります。「これの針も！」は、この針をもつてさいふこと東國方言で、「つけろ」さいふ「ろ」は今日もなほ用ひられる言葉であります。女性の言葉さしては粗野のやうであります。朴訥な眞情の窺へる言葉であります。旅行の途中、着物の紐がきれるやうなことがあつたら、これは私の手と思つて、この針でお附け下さいさいふのであります。今日も前線の兵隊さんたちに、着類を送るさき、糸針を添へることを忘れないことと思はれます。そのさき「あが手さつけろこれの針も！」さいふ心は起りませんか。

信濃路は今のほり道かりばねに足踏ましむな

履くつはけ我がた

これは卷十四、いはゆる東歌の中の歌で、特に信濃國歌しんのうたとなつて居ります。たぶん信濃國の女性の作でありませ

う。夫が木曾街道を通つて都の方へ出かける用事が出来たのでありませう。それを見送りまして、木曾街道は近頃が開かれた道で、木の切株なきがあつて危いから、けがのしないやうに、さうか履をはいてお出かけ下さいと申し出てゐるのであります。旅に出る夫への注意さして、いかにも行き届いたものであります。たいして目立ちません。華やかなものではありません。しかし日本女性の愛情はかくの如く眞實夫の身になりきつて、全く自己を忘れてゐるやうであります。かういふ歌からすぐこんな結論を出しては突飛びのやうにもきこえませうが、又萬葉時代にも氣性のはつきりした強い女性もありまして、さういふ心理を明瞭に言葉に出してゐるのであります。

今さらに何をか思はむうちなびき情は君に

よりにしものを

わが背子せこはものな思ひそ事しあらば火にも水にも

わがなげなくに

この二首は、巻四にありまして、「安倍女郎歌二首」とあるきりで、事情はよくわかりません。また安倍女郎といふ人の傳記もよくわかりません。恐らく何か事情の切迫したとき、相手の男に贈つたものと思はれます。すべて自分は、相手によつて生きてゐるさいふのであります。「火にも水にもわがなげなくに」は、いはゆる水火をも辭せざるさいふ熱

意を示したものであります。「わがなげなくに」は、私がなさいふとこはなさいふので、二重の否定で、あるさいふやうな意味になり、火にも水にも、私がないさいふ事はありませんさいふことになります。巻十六の傳説的の歌に事しあらば小泊瀬山の石城いはきにもこもらば共に

な思ひそわが背せ

さいふのがあります。萬が一にも大變な事が起りますれば、あの小泊瀬山のお墓に入るやうな事があつても、共々にまゐりませうから、さうか我が夫よ、心配をなさいますなさいふので、今のさきさほど似て居ります。夫の爲に全身全靈を捧げ、二にして一さいふ強い情熱であります。しめやかな愛情は一度溢ればかういふ奔流ほんりゅうともなるのであります。

但島皇女の作には、

人言をしげみ言痛みおのが世にあまかたいまだ渡らぬ

朝川わたる

さいふやうに、世間の人目を忍び、世の噂を氣にするやうな作と共に、また一方には

秋の田の穂向ほむきのよれる片寄かたよりに君に寄りな

言痛ことたかりとも

さいふやうな作があります。氣の弱いやうな所の中に、また恐しく氣の強い所の窺はれるのが、萬葉時代の女性の心情であり、特に愛情のあらはれであると思はれます。



# 十二月の保育

## 生活訓練

### 倉橋惣三

節季師走。そんなことは子ども達には無頓着である。寒風蕭條、そんなことも子ども達には平氣である。十二月といふ月は、なんとなく世帯染みた、諸事あわただしい月のやうに感じられるが、それはおとなの十二月であつて、子どもの世界ではない。それを、どうも自分等の氣もちにかまけて、子どもの爲に此の月を粗末にしかねないのは、よく氣をつけたいことである。

生活訓練といふと、たゞもう、かう訓練しあへ、黙けてと、目的の方、結果の方ばかりに走り易い。しかし、生活訓練は生活訓練である。子ども達のその時の生活を一ぱいに尊重することから始まるものである。生活の中でする訓練。生活によつてする訓練。生活になる訓練といふ意味に相違ないが、それには、子どもの生活そのものを理解してやり、大切にしてやることなしには出来ない。生活の樂しみを先づ樂ませ、生活の喜びを先づ喜ばせてこそ、その生活を眞に生活させることが出来る。生活を眞に生活させてこそ、その訓練も生きた生活の中に生きる。——これは、

月々同じことであつた。即ちその月々の生活を充分生き／＼と生活させることが、その月々の生活訓練の第一の要件なのである。花を喜ばせてこそ春四月の生活訓練がある。水を樂ませてこそ夏八月の生活訓練がある。秋の日々の生活訓練がそうなるのも言ふまでもない。——冬十二月の生活訓練も、子どもの十二月を、眞に子どもものものとして大切にすることから始まるのである。

それを、おとなが時々忘れる。そうして、自分等の忙しさを、年末感にまぎれて、子どもの生活の一切を、おそろ／＼にして仕舞つたりする。その上、一切の子どもの生活を、来るべき次の月、すなはち正月に譲つて仕舞ひ、推しやつて仕舞ひ、おあづけにして仕舞つたりする。とんでもないことである。もつてのほかのことである。眞に、もつたいないことである。年の暮だつて子どもには、何が暮れだ。お正月はお正月で樂しい。年の始めの喜びは多いことに相違ない。しかし、十二月が、たゞそれを待つただけにされてはつまらない話である。子ども、殊に幼児には現在のみが眞の生活である。今日を充實しないで何んの生活があらう。い、お正月が約束されてゐるからといつて、十二月の此の一日々々の生活が、少しでも、ぞんざいに取扱はれてはつまらない。たまらない。況んや、現在をたゞ過去の結末とだけ考へて、一年の回顧なんかにかのみ使はれては、幼児にとつて一層たまらない。此の貴い現在十二月の生活を、過ぎ去つた今年と来るべき明年との間にはさまつた、ほんの袂まりものゝやうに扱はれたりしては、幼児はどんなに、つまらないことだらう。

十二月の寒さは、地方によつて差があるにしても、先づ、室内本位になり易い月といへよう。子ども自身は風の子すなはち冬も戸外の生物といはれるが、幼稚園の子はまだ風の子の弟や妹であるので、聊か寒さにかじかんだりする。その上、その幼さをいづくしむといふか、いたわるといふか、あやぶむといふか、何んといつても風の來ない室内に仕舞ひ込んで置かうとする。その上、御自身のお寒さも手傳つてと申し上げては濟まないが、自らさきに立つて、子ども達を外へ外へと誘ひ出す保姆さんは少ない。そうすると、子ども、それに慣れ、それに弱められて室内生物になる。頬を紅くして呉れる冬の空氣の爽かさを嫌ひ、たこを舞ひ上らせて呉れる北の風の勇ましさを畏れ、年寄りくさくさかじかんで仕舞ふ。ところで、之れが健康鍛練の上によくはないことはいふまでもないが、生活訓練としても極めて望ましくない躰けである。若しこれを一つの躰けとし名をつければ、弱化躰けとでもいはいうか、性格を強くすることを根本とする躰けの本義とは全く反對のことになる。春の戸外は軟風の快さである。夏の戸外は清風の快さである。秋の戸外は晴風の快さである。別に躰けられなくても出たくなる戸外である。その戸外生活の習慣が養はれたからとて、性格上は何んの貴さがあることでもない。冬の戸外生活こそは、鍛へられる生活であり、鍛へられた生活であり、一つの貴い躰けである。それも、たと寒風に吹かれて直立してゐる躰けではない。かける、とぶ、はねる。風が吹けばその風に向つて走る。ぶらんこに乗ればその風を切つて漕ぐ。冬の風そのものは烈げし

く、その寒さこそは嚴しいが、斯うして冬の生活を快しとするのである。大きな躰け、強化躰けである。

寒い日を強いて戸外に出ないとしても、寒さは室内にもあり、その寒さに負けたらゝの不行儀があり易い。殊に、家庭の朝夕に、冬の不精といふことが澤山ある。ふところ、に引込む手、火鉢を離れない手、厚着に重い足、こたつを出ない足。不精は生活の弱さでもあり、だらしなさである。うんと強く躰けなければならぬことである。

### 自由遊戯

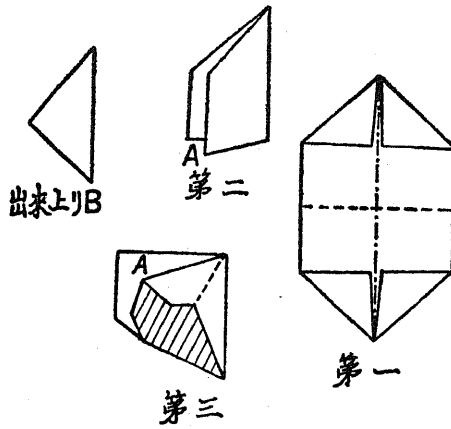
#### 上遠文子

すつかり枯葉も落ちてしまつた梢に吹く北風も寒さうに音を立て、居ます。大人には、寒い冬、忙しいこの月が、子供達には、目の前に待つてゐるお正月を指折敷へてまつ楽しい月なのです。この月は寒さも次第にきびしくなりますので、屋内保育の場合が多くなる事です。室内だと、さかく不衛生になりがちです。で、換氣は常に忘れず、晴天の午後は外で遊ぶ様に致しませう。子供は風の子です。

紙飛行機とはし 大東亞の空に武勳を立てゝある 海鷲、陸鷲のお話を聞くたびに、小さい僕達も拳を握つてしまふ。古くなつた雑誌をほごして、紙飛行機を作りました。年長組の子供は一人種々の形の飛行機を折ります。その折方で、よく飛ぶので自分

でそれを工夫し、そこに一つの科學心を養ひます。

紙鉄砲 これも古新聞紙又は古雜誌で作ります。これもとても幼児によるこぼれ雨の日等一日家にとちこめられた時のよい玩具であります。作り方は御存知と思ひますが御参考までにかかげませう。



- 1、紙は長方形のもの、よろしい。
- 2、四隅を第一の隅の様に折る。
- 3、それを縦に半分に折る。
- 4、横に半分に折る。
- 5、頂點Aを第三の様に内側に折込む。
- 6、B點を持つて勢よく振り音を出す。

三角とり これも靜かに遊べる遊びでせう。自分の小さい時盛にやつた事を思出します。小圓を澤山かき、ジャンケンで勝つ毎に線を引き二つの圓を繼いで三角を作つてゆきます。そこに一つの工夫力も手傳ひ、年長組にはよい遊びでせう。

かるた遊び 「もうあと幾つねるとお正月」 指折數へて待つお

正月。待ち切なくてかるたを出して遊び始めました。年少組は先生が讀み、子供は取るだけ。年長組になると字も少しづつ讀めてくるのでお友達同志で讀合ひます。「イ、ヌ、モ、アルケ、バ、ボ、ニ、ア、タ、ル」切れ／＼に讀む聲に皆は一生懸命さがします。紅潮してくると兎角亂れがちになりますから先生はその團體競技精神をよく指導せねばなりません。

双六遊び 手技でこの間から一生懸命作つてゐた双六が、出来上りました。サイコロも新聞粘土で上手に出来ました。僕の自動車双六、私のお人形双六と變り／＼皆で遊びませう。お名前の札をフリダシに、ジャンケンで勝つた人からサイコロを振ります。「義子ちゃんは五つ」一つ二つ三つ……五つ。札を五つ目の所におきます。そして早く上りに行つた方が勝つです。數の觀念も自然と折込まれて居り、昔は艶麗な女子達<sup>チナゴ</sup>が膝をまじへてしたであらうこの古風的な、しかも現代味を多分に持つ遊びとして捨てがたきお正月の遊びでありませう。

凧あげ、羽根つき カチン／＼とお正月を待たびる音が聞えて來ます。男は凧あげ、女は羽根つき。凧あげは、年少組には先生があげてみませう。年長組の人は自分であげてみませう。風の工合、糸の引加減、此處にも科學する心がおこつてきます。先生も一緒に工夫して低くても皆で上げた喜びはいひしれぬものです。

羽根つき。冬の運動の一つとして、體全體の活動なので寒さも何處かへ飛んでしまひます、お天氣のよい午後お外で思ふ存分お

空を仰いで致しませう。

## 遊 戯

### 古 澤 静 子

寒くなつて参りました。暑さ寒さによつて運動を調節し、身體に及ぼす影響のコントロールをしなければなりません。

寒い日の遊戯は、早く身體が暖くなる事が必要でありますから、その時間は最初に駆足をしたり、行進の時間を長くしたりして準備運動にする事もよいでせう。そして遊戯も成るべく跳躍的なものをその日の計畫の中におり込みたいと思ひます。

「かしん場」 日本幼稚園協會發行 幼稚園新唱歌所載

隊形。二、三人一組になつて一緒に行動する。

「前奏」 各自、右臂を曲げて大工さんの道具を肩に擔いだ姿勢をとり、一組づつかたまつてスキップで好きな方向へ行き、前奏が終つた時、一組の者がむきあつてその場に坐る。

「のこぎりのおとゴシゴシゴシゴシ」 坐つたまゝ。兩手を握つて、鋸を持つた姿勢をとり、鋸で木をひく様に、體の先方に兩手を出して次に體の近くにひきよせる。この動作を一小節に二回行ふ。

「かんなのおとがスースースー」 鉋を持つ様に兩手の指を曲げ、鉋で板を削る様に、體の左から右へと兩手を伸ばしては、ひきよせる。この動作を一小節に一回づゝ行ふ。

「くぎをうつおとんカチンカチントントン」 兩手を固く

握り、右手を高く上げて、左手の上に打ち下ろす。一小節に一回づゝ打ち、「トンカチ／＼／＼／＼」の時に、歌詞にあはせて少し早く打つ。(結局七回打つ事になる)

### 二節

「さんかくしかく」 始めの四呼間、各自掌を交互にかへしながら二回拍手し、次に一組の者全體で、お互ひに掌を三回打ち合はせる。この動作を二回繰り返して行ふ。

「大工さんがくれた」「さんかくしかく」と同動作。

「木のきれ小ぎれ積木にしませう」 掌をかへし、積木を重ねる様に、皆の手を集めて掌の上へ上へと重ねてゆく。

「くぎをうつまねトンカチ／＼／＼」

一番と同じ。

「お正月」 エホン唱歌フユノマキ所載

隊形。全生圓形を作り連手する。

「お正月がくるぞ」 全生連手して圓心に進む。

「一つお年が」 掌を交互にかへして拍手しながら後退する。

「多くなる」 兩手を出し、拇指から順に曲げ、又順々に開いて年を数へる。(一呼間に一指づゝ曲げる) 休止符のところは動作を休む。

「うれしいな／＼」 圓周に沿つて左に歩きながら、右手を大きく後から上にあげ、體前で左手の上に打ち下ろして「な」の時に拍手する。この動作を四呼間で行ひ、次の四呼間は反對の方向に進んで、今と反對に左手を大きく後から上にあげて前から下ろし、

體前で右手の上に打ち下ろして「な」の時に拍手する。

## 二節

「お正月がくるよ」一節と同じ。

「凧をあげたり」凧の綱を引く様に、兩手を交互にひきながら後退する。頭をあげて、空の凧を見ながら。

「すころくしたり」兩掌を合はせ、左右の耳の側で二回づつ、結局左右左右と八回振る。

「うれしいな〜」一節と同じ。

「汽車」日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。八人―十人を一組とし、一列縦隊に並び、兩肘を曲げ體側につけてしゃがむ。

「前奏」(始めの二小節) 汽車が動き出すところ。體側につけた車を廻しながら四呼間の中に一齊に立ち上る。

「一小節―八小節」車を動かしながら、一呼間に一歩づつ歩いて進んでゆく。

「九小節―十七小節」同様にしてスキップで進行する。

「十八小節―二十五小節」トンネル。

先頭と次の者が向き合つて手をとり、トンネルを作る。後の者は順々にトンネルをくぐつて、これにならつて二人づつトンネルを作つて行く。全部の者がトンネルを作り終つたら、最初に出來たトンネルは手を離して、トンネルをくぐり抜け、もとの様に先頭から順に一列に並ぶ。

「二十六小節―三十三小節」又車を廻しながら、スキップで前進。

「後奏」速度をゆるめて歩き、最後の二小節の間にしゃがんで車を體側にとめる。

兩肘を屈伸してよく車を廻し、列が亂れて脱線したり、轉覆したりしない様注意する。

「國旗ふれ〜」日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。男兒。出征兵士で、一列圓形を作る。

女兒。見送りの人々になり、男兒の圓形の中に、外側をむ

て一列圓形を作る。(男兒と女兒はむき合ふことになる)。

全生、右手に日の丸の旗を持つ。

「前奏」そのまゝ聴く。

「國旗ふれ〜ふれ〜國旗」

全生、旗を持った右手と、左手を體前で交叉し、次に横に舉げて、旗を振る。

「赤いたすきの兵隊さんが」

男兒。旗を肩にかさし、左手を振り、圓周に沿つて右に歩く。

女兒。そのまゝ右手を上舉し、旗を高く振る。

「行つて來ますと元気な顔で」

男兒。圓周に沿つてそのまゝスキップを行ふ。

女兒。最初の動作の様に、旗を持った右手と左手を左右に振る。

「擧手の敬禮勇ましい」

男兒。止まつて圓の内側を向き、右手の旗を左手に握りかへながら足踏みをする。そして「勇ましい」の時に右手で擧手の敬禮をする。

女兒。再び右手を高く擧げて旗を振る。

## 二節

「國旗ふれ〜ふれ〜國旗」

全生。一番と同様。

「白いたすきのおばさん達が」

「勝つてかへれと元氣な聲で」

男兒女兒共に、一番と同じ動作を行ふ。

「皆で萬歳勇まし〜」

男兒は圓の内側をむき、全生兩手を高く擧げて萬歳を二回する。

## 三節

「國旗ふれ〜ふれ〜國旗」

一番と同じ動作を行ふ。

「行つて下さいお國の爲に、勝つて下さいお國の爲に」

全生旗を肩にかざし、

男兒。四呼間に四歩前進し、四歩目に右足（左足）の足先を左足

（右足）の踵のところまで軽くうつ。次の四呼間で後退する。この動作を二回繰り返す。

女兒。男兒と同じ動作をする。その爲に、前進した時には、男兒

女兒が交錯する事になる。

「行くもかへるも勇ましい」

全生右手を上擧して旗を高く振りながら、各自のまわりを右に

一廻りする。

「後奏」

全生旗を高くあげ、圓周に沿つて右にスキップで進む。最後に圓の内側（女兒は外側）をむき、ピアノの合圖があるまで旗を振る。

歌詞、動作共に勇ましいものであるから、歩くこと、スキップ、擧手の敬禮、萬歳、旗を振る動作等、どれもきまりよく、正しく整然と行ひたい。

観  
察

## 寒くなること

清水光子

暑くなる時もさうであるけれど、急に今日は大變寒いといふやうな日がある。その様な日に「今日はすつ分寒いのね」と言つて、朝大變手が冷かつたとか、着物を厚くしたとか、お庭が霜でまつ白だつたとか、氷がはつたとか話合ふ。そして話し合ひ乍ら自然に觀察する態度へと行くやうにする。寒いのねと言ひ乍ら、保姆自身が見るといふやうにして寒暖計をみる。「十度（攝氏）ね。きのふは十二度だつたのに。」などと話すやうに又獨り語のやうに言ひ乍ら。すると「それなに」、「みせて」といふ子どもがあるだらう。それなら見せる。殊更説明しないでたゞ寒い時は水銀の上端が低い、暑い時は高くなるといふ程度に話し、よくみせる。もつとつつ込んで聞くやうな時は適當に答へ、疑問を或程度殘しておく。例へば、なぜ上つたり下つたりするの、といふやうな間に對して

さあ、どうしてかしらといふやうに。お家のお庭まつ白だつた、といふ話が出れば霜をみるやうに導く。雪ではない、冷いもの、幼稚園のお庭にもある。こゝにも、あそこにも白くついでゐる。それを一しよに集める。手にのせるとどける。水のやうね、といふ子もある。いつ降つたの、どうしてこゝなつたの、といふやうな間には「さあ、いつ、ふつたのかしら、どうしてかしら」、と一しよに疑問にするといふことにし度い。

霜柱が立つやうになれば又霜柱取りが面白く、文字どほり寒さも冷さも忘れてハンカチやままごとのお皿に集めつこする子ども達である。こんな長いがあるといふやうに長いのを比べたり、さくつと踏んでくづれるのをみたりする。中に、霜柱がきたないから洗ふと言ふ子どもがあつたら洗はせてもよい。とけてしまつてなくなつてしまふことを知ればそれでいゝ觀察が出来たのである。又お家にもつて歸ると言つて包んで日向に出しておいたらとけてしまつたといふのもそれでいゝので、とけてしまふといふこと、それでもつて歸れないことをみればそれでいゝ。

寒い日、何故着物をきてゐるかといふこともよく子ども達の間で問題になる。數へて比べてみる。同じ一枚でも毛糸もあれば、うすいさらし布もある。綿入は一枚でも暖かいといふやうなことを話し合ふやうに導きながら。

このころは十二月ではまだ室を暖めるといふことはしない所が多いだらうけれど、ゑろり火鉢のまはりはもとより、ストーブ、ステイムのまはりさへよいものである。一方火のそばへよるこ

とより、活動によつて暖くすることに務め、手などは摩擦してあたたかくするやうにして、乃木式火鉢の話などしてきかせるのであるが、室を暖めるものについては又それとしてみるやうにする。その時充分氣をつけてあまりそばへよりすぎずあぶないことのないやうにするのは勿論である。あたゝめられた空氣が動いて室全體が段々あたゝまつてゆくのだといふことを、うすい紙きれなど、そばにもつてゆくと飛んでゆくことなどで知らせて話し、室を暖かく保つ爲に戸のおけたてに氣をつけるやうに習慣つける機會にする。寒くなつてもいぢけないやうに、といふのはむしろ大人に言ふことで、子ども達は體が丈夫でありさへすればいつも元氣よくとびまはつて寒いことを知らないものゝやうであるが、寒い冷いことに耐えること、酷寒の地で戦つてゐられる皇軍勇士のことを話してきかせるのも子どもに寒いとか冷いとかいふ言葉の多くなるこの頃、殊にきかせ度いことである。

秋蒔きの芽の成育をみるのも寒い日に、どうなつたかを見る氣持で子ども達と一しよに見まはる。霜よけ支柱などを、直す所は直したりする。

冬至

子どもへ曆的なこととしては一ばん晝間の短い日である事を話す程度にして家庭的な行事として、地方々々によつて異なるであらうから、それを話し合ふやうにする。

門松・暮の町、お正月の飾り

時局柄斯うしたものを充分觀察する機會が少いであらうけれど

ど、何となく殘して置き度い氣のする風習を機會があつたらみせ度いものである。幼稚園に門松が立つたらみに行き、外へ出て町の様子を見る。何となく年の暮らしいゆきき、ピラがはつてあつたり、おもちゃやには羽根や羽子板が飾つてあつたりするのなみたりする。銘々の家の飾りについて話し合つたり、わかざりなぞ持つて来てみせたりして、どんな年でも子ども達には楽しい、又楽しませ度いお正月を、待つ氣持を一ばいのばししたいものである。

## 談話

### 志村貞子

早くも十二月を迎へます。寒さに負けずに元氣に戸外で遊ぶと共に、お部屋で先生を圍んで楽しくお話を聴く機會も充分に與へたいと思ひます。たとへ暖房がなくても集ふことの楽しさが、お話の楽しさが皆を暖めてくれるであります。

風の嫁入り 鼠のお父さんとお母さんが、子鼠を世界中で一番偉い人のところへお嫁にやりますと相談をします。それから太陽、雲、風、壁と一番偉いものを尋ねていつた末、「なるほど世の中で私どもが一番偉いのですね、これは面白い、今までちつとも氣がつかなかつた」といふわけで、子鼠をお隣の鼠のところへお嫁入りさせたといふお話。繰返して、しかも變化のある面白さが子供達に喜ばれるやうです。いふまでもない事ですが、お陽さまから雲、風、壁、鼠と變つてゆくところをはつきりと話すべきであり

ます。その爲に一寸間をおいてまた新しい口調で始めること等が考へられます。

傘屋の長吉 長吉さんといふ傘屋の小僧さんが傘をほしてゐる時、大風が吹いてきて、傘につかまつたまゝの長吉さんを吹き飛ばしてしまひます。吹き飛ばされて大男の國に行つた長吉さんはいろ／＼なめにあつて、また吹き飛ばされてかへつてきます。着想が奇抜であります、ガリバー旅行記の面白さは一寸複雑すぎるこの子供達にとつて、同様の空想を樂しませてくれるお話ではないかと思ひます。先生もまたこの空想をたのしみにたいものがあります。

お菓子の世界 幼稚園談話集第二輯に載せるお話です。お菓子の好きな君子さんは、神様にお願ひして世界中のものをみんお菓子にしていただきます。お庭の石も、垣根の花も、お縁側も皆、お菓子にかはつてゐるので大よるこびてお母様にお知らせに行きましたが、お母様はお返事もなさいません。よくみるとお母様もお菓子になつてゐます。びつくりして大きな聲を出した拍子に眼がさめて「あゝよかつた。夢でよかつた」といふお話。この着想もお菓子の好きな子供達を充分によこせば、ぐん／＼お話の方へ引きつけられてきます。先生の思ひのまゝに、いろ／＼なものな砂糖菓子に、クリームに、チョコレートに變へられます。ところで終りの、大切なお母様がお菓子になるところでは、子供によつては、今迄いろ／＼なものをお菓子にかへて樂しませてきたことが氣の毒になる程、強い感じを受けるやうでありますから子供の



様子に注意して、夢であつたことを強調する等、適當に和らげる注意が必要だと思ひます。まして、殊更に教訓めかすことは不要であります。

**兎吉のお母さんの病氣** これも第二輯に載る筈であります。兎吉のお母さんがねむれない病氣になります。それをきいた兎吉のお友達狸のボン吉君と雀のちゆう子さんが腹づつみと唱歌でいゝ氣持にさせてねむらせてあげます。それで病氣もすつかりよくなつて皆で御馳走をいたゞいてお祝したといふお話。病氣といふ題でありませんが、内容的には題から受ける暗さは少しもなく、和やかさ、ほゞゑましさ、あたゝかさを感じさせるお話です。

**鼠の餅ひき** もう明日はお正月といふのに鼠の家にはお餅が一片もありません。皆で探してゐる中にお茶の間の天井の眞中に大丈な紙袋に入れて吊してあるのをみつけました。このお餅をどうしてとり、どうして引いていつたでせうか。これを中心にお話がすゝめられます。子供達も一しよに考へるでせう。そして鼠の根氣と工夫に感心し、うれしがることです。鼠の習性を必しも忠實に寫してゐるわけではありませんが、さういふ點に子供達の眼をむけてゆく一つの媒にもなり得るかと思ひます。

手  
技

科學的なおもちゃ

及川 ふみ

十一月の手技に科學的なおもちゃを少しかき出したのであるが、十二月も寒さがおひおひに加はつてきて保育室内で遊ぶ機会も多いので、室内遊びのおもちやとして科學的なものを二三あげて見る事にする。

この前には風車をとりあげて、その取扱ひ方を述べておいたがこの他に日常幼児たちにしたしみの多いおもちゃとして作られるコマもこの意味でのよいおもちゃの一つである。

紙コマ

畫用紙或は古はがきを材料としての紙コマは直徑八センチ、五センチ、三センチの三枚の圓をはり合せて丈夫なコマを作る。三枚重ねるのは中央を丈夫にするためである。この時にコマの圓は正しく丸く切りぬかれていないと平均がとれないでよく廻らないのであるから、圓の切り方に吟味する事と、中央の穴が心棒より小さい目にあける事、心棒の長さが適當であるといふ事などはいづれもコマがよく廻ることの條件となるのであるからこれ等のことに保母が注意して作らせるのである。

幼児達の作ったコマがよく廻れば丸が奇麗に切れたので、よくまはるとか、心棒がしつかりついでゐるからよいとか、こゝで簡單に批評する事によつて幼児達の注意をむける事になるのである。

これと反對に廻りの悪いものが出来れば、幼児と一緒に、どの點が悪いのでよく廻らないのか、しらべて見てなほすとよい。故障なしに出来る時よりも、作り直してよく出来た時にこそ作らせる方の目的が充分達せられた様に思はれる。

又今コマの作り方だけでなしに、これに色をつける事によつてもいろ／＼と経験させる事が出来るのである。コマの色のぬり方を、中心から放射状に二色、或は三色にぬり分けておくと廻せば今までの色のちがふ色になつて見える事なども注意して實際にさせて見るとよいのである。

### お皿の果物

次に古はがきを縦を二つ折にして、一面にはリネゴなどの果物を、一面は色で縁どりにしたお皿にしておく、二枚の間の中央に古水引の紐をはりこんでおく。両端の紐を左右に引きながら廻すとお皿の中にリネゴがある様に見える。手輕に出来る幼児たちのよいおもちゃである。夏の講習に、この種のもので一面を水草に、一面を金魚にしたのであるが、これと同様な作り方で、鳥籠を一面に、鳥を一面に、又、花と蝶々などという／＼に考へて作られる。この時に上下のあるものは、これをはる時に心得てはらなければさかさまに見える事である。この事も一つのよい経験であるのである。

### 織紙

數を實際に數へて作るものうち幼稚園の手技として古くからあるものに織紙がある。織紙として作られてゐる伊興証紙のものは、色も美しく、出来上つたものは紙ばさみなどとして利用して幼児たちがよるこぶものであるが、この材料が手に入らない時には、古はがきを二色にぬりつぶして、五行或は七行位に切つて織紙の材料として使ふとよい。たゞ織紙は行數があまり多いのは

作るのに面倒であるからせい／＼七行位までよい。

### ヤジロペー

豆で作るヤジロペーは古くからある面白いおもちゃである。豆をむだにつぶしてしまふのは勿體ないから、粘土で豆がはりに作つて見るとよい。粘土は少しかたい目に作り、大きはるんぞう豆より少し大きい目にする。兩手と頭と三個同じ大きさのものでよいが、頭だけ少し大きく作つてもよい。兩手のヒゴは九センチ位の長さで、中心のヒゴは一センチ半位の長さでよい。作つてから一日、二日位おいてからおもちやにするとはれなくてよい。

この他に普通にもて遊ばれてゐる、カミテッポウ、紙ヒョーキなどしらす／＼のうちにいろ／＼と工夫されて幼児たちを樂しませてゐるのであるが、簡単な是等のおもちやの中にも考へいたれば科學的なよい材料が多いのである。たゞこれを如何に幼児たちに取扱ふかといふ點に一考を要するのである。

## 誘導保育

### 菊池ふじの

#### 双六

ひきつゞき製作いたします。

#### かるた

昔から、双六とかるたは、お正月とは、きつてもきれないつながりがあります。双六製作といつしよに、一方では、かるた作り

なませう。その組のかるたを拵へて、出来上つたら、お正月前だつてかまはない、遊びませう。自分達の作つた、かるた」どんなに喜んで遊ぶか知れません。

先づ、毎日一度みんな集つてイロハのイから考へ始めませう。みんなの考へ出したものの中、適當なのをみんなと相談の上で決めませう。それから、その繪柄をも相談の上で大體見當つてませう。文面がみんな出来なくとも、並行的に、一方では札を拵へて、字と繪とを交るゝ子供にあつて、文字を書かせたり、或は繪を描かせたりいたしませう。こうして、この「かるた」が出来上るまで毎日、集つて考へつゞけたり、作りつゞけたり致しませう。文を考へさせたり、繪を考へさせたり書かせたりですから、製作に對しての期待効果は申すまでもなく、行事に對しての興味も亦云ふまでもありません。以上の他に文字に對しての關心と申ませうか興味と申しませうか、それは絶大なものです。今まで文字に對して少しも興味も關心も持つてゐなかつたのが「かるた」を始めてから急に、假名をすつかり覚えてしまつたといふお話はよく聞く實話です。子供に興味のない文字であるとか又は文字に少しも興味を持つてゐない子供に、假名を教へたいと思ふ時、無理やりに子供をおさへつけてまで教へるといふことに疑を持つ私共に、文字の導入物として、このかるた遊び程いゝものは無いと思ひます。殊にそれが自分達の製作したものですから、その興味も亦大したものであることは申すまでもありません。是非製作して、是非遊ばせませう。

札にする紙は、不用な寫眞の臺紙を利用してよいし、又古いお帖面などの表紙の裏の白いところなどは、丁度適當な材料になることと思ひます。

### 歌とお話の會

これは恐らくこの幼稚園でもしていらつしやることでせう。今まで親しんで来たお仲間や先生方と、久しくお別れするのですから、一時を一堂に會して楽しく遊び過し度いといふ氣持は、小さいご本人達よりもむしろ大人なる保姆がやり度いことであるのです。第一學期の終りにもしたことです。こゝには詳述を避け、擧筆することに致します。

### 岩手縣保育會總會

- 一、期 日 昭和十七年十一月二日 自午前九時 至午後三時半
- 一、會 場 市内内丸岩手縣女子師範學校附屬幼稚園
- 一、實地保育 自午前九時 至午前十一時
- 一、總 會 自午前十一時 至正午
- 一、附屬幼稚園研究發表 自午後一時 至午後二時
- 一、實地保育の批評會 自午後二時 至午後三時半

# 幼児の體力競技

東京女高師附屬幼稚園保姆

古澤 靜子

今日、幼児の鍛錬云ふ事が、各方面から問題にされて  
りましたので、その事に就きまして、少し考へてみたい  
と思ひます。

今までも、幼児の鍛錬に就いては、かへりみられない  
事なく、常に行はれて居ります。幼稚園の唱歌遊戯、律動  
遊戯が、幼児の生活々動に合致した表現法に依つて身體支  
配の能力を養ひ、無意識の中に身體鍛錬を行ふ點、極めて  
有效なものであります。

けれども當今の要求さしましては、更に幼児に強靱な體  
力を錬成し、不撓不屈の精神を養ひ、勇氣忍耐力を適當に  
湧き起させる事を必要と主張されてゐる様に承つて居りま

鍛錬と申しましても、幼児はまだ發育の途上にありまし  
て、身體の抵抗力も弱いのでありますから、行きすぎるさか  
へつて障碍を及ぼすことになり、それかと言つて彼等自  
身では自の發的に行へないことでもありますので、私共が多  
少その方向を示し、暫時に發展を追ふてゆくことが出來た

ら考へるのであります。

そしてその方法としましては、幼児の事でありましか  
ら、さうまでも、遊びの形式で、面白く興味深く變化あら  
しめる事が必要であります。私共が常に願ふところは、  
それ等に依つて個人の運動能力を高めると共に、團體的訓  
練を目指して、睦の寮圍氣をつくりあげる事でありませう。

この様な考へのもとに私共は運動の基本形式である歩及  
び走、投力、跳力、運搬力、平均、懸垂力の諸種目による  
幼児の體力遊びと云ふ様なものを次に取上げてみました。

**歩** 歩くことの一步步々は、取りたて、云ふ程の運動では  
ないが、之が寄り集り、連續的に行はれる時には、非常な  
運動量となり、立派な全身運動となるものである。

「取扱ひ方」  
○最初はたゞ樂器や手拍子に合せて、さつさ歩くことに  
する。

○歩くことに於て身體的效果あらしめる爲には正しい姿勢

を保つ事が大切であるから、全體に、又個人に就いて正しい姿勢の歩き方を示範する。

即ち 上體を眞直ぐ保ち、目の高さ位の位置を眺め、臂は自然に、足を伸ばして歩く。つま先は、歩く方向にむける。外に向いたり、内に向いたりしない様。この様にして正しい姿勢は一度に限らず、常に心掛けられなければならぬ。

○次は少し變化を與へる。

イ 歩くこゝに強弱遲速の變化をつける。即ち樂器が強くなつたら股を高く上げ、地面を強く踏みしめて歩き、弱くなつたら、成るべく音がしない様、靜かに歩く。樂器が速くなつたら速く、遅くなつたら遅く歩く。

ロ 或は臂にも様々な動作をつけながら歩く。横に伸ばしたり、斜に擧げたり、萬歳をしたり、右手で敬禮をしたりしながら歩く。

又は上體を前傾して兩手を後に伸ばし、ヒョコになつたり、上體を全屈して兩足を握り、アヒルになつて歩いたりする。

○歩く時は、皆一緒に歩いてゐても退屈だから、時には、五、六人づゝに分れたり、一人で歩かせたりする。

走 走るこゝは、幼兒の自由遊戯の中、最も多く含まれる運動であつて、脚部の筋肉を鍛鍊する事は勿論であるが、

心臓、呼吸器の鍛鍊にもなるので、特にさりあげてみた。  
「取扱ひ方」

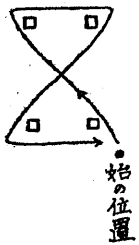
○歩いた時と同様に、最初は皆一緒に樂器にあはせて走るこゝにする。

○樂器になれたら次に正しい姿勢で走らせる様心掛ける。走る姿勢は、歩く姿勢が、四十五度位、前傾した姿勢である。私共が見た目に最も美しいと思はれる姿勢がよい姿勢なのであるから、特に頸を突き出したり、腰を曲げたりしない様、臂も適當に振り、股も自然に擧がる様、注意したい。

○變化を加へてみる。

五、六人一組になつて一列縦隊に並び、自由な表現に依つて、電車や汽車を作つて走らせる。

或は脊の順に五、六人づゝ、横隊になつて走らせる。又一人づゝ室を一廻りさせる。更にそれに變化をつけ、



一定の障礙物を指定して廻つて來させるるか、上圖の様に積木を置いて色々に示範を示して、その通りに廻つて來させるのも面白い。

○競走を行ふ。

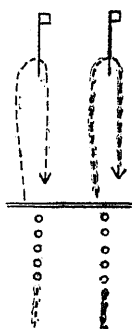
走る以上は、早く走る事が必要であるから隨時競走を行

つてその氣分を養ふのも、又よい事であらう。競走には色々様なものが擧げられるが、先づ簡単な次の三つを取扱つてみる。

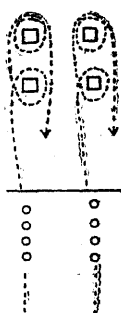
イ 整列競走

赤白二組を定めておき、全體自由な隊形に散つてゐる。先生の合圖によつて、定められた場所に、早く一列縦隊又は横隊に並び得た組を勝とする。その時の並び順番は、大きい順さか小さい順さか前以つて定めておいても、或は定めておかなくてもよい。兎に角、何時までも押合ひをしてゐないで綺麗に並んだ組を勝とする。

ロ 障碍物廻りの競走



圖の様に二組に分れて向ふの障碍物を廻り、次の者にバトンを渡す競走である。



この時、出發線に於て正しくバトンを渡す事、濟んだ者は直ちに列の後方に並び事等、簡単な規則は、どこでも守ることが大切である。

ハ 廻旋競走 之も圖

の様に二組に分れ前方の障碍物を廻つて次の者にバトンを渡し早く濟んだ組を勝とする競走で、障碍物は、始めは一箇でも結構である。廻り方によつて、つまり、非常に廣く物を廻る者、無駄なく物の近くを廻る者等、運動神經の發達の具合も分かる。

跳

跳ぶこも脚力を強くするばかりでなく腓腸筋、腰、背筋の發達を促すものである。身體に及ぼす効果はさうであらうが、兎に角跳ぶこもは愉快である。今これを、川さび、山越えの遊びとして行ふことにする。

イ 川さび



圖の様に二本の繩で川を作り落ちないやうに、うまく跳び越してゆく。

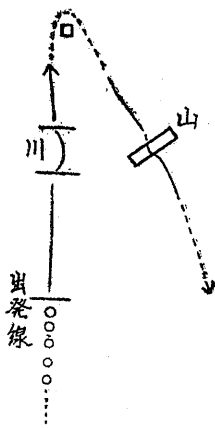
川幅は最初八十糎位、次第に廣くして一米五十糎位まで大丈夫であらう。但し身體の發達具合により考慮しなければならぬ。跳ぶ時は、跳ぶ姿勢等云ふ事より、たゞもう、一息に跳び越す氣持が大切であつて、その爲には助走距離、即ち出發線より川までの距離の長さ、及びその間の走り方が大いに關係し、助走距離は八米以上、

その間は、全速力で一生懸命走る事が必要なのである。こうして跳び越すのには、又勇氣、決斷力がなくてはならない。

これは又、組に分れて競争して取扱ふ事も出来よう。

ロ 山越し

幅十一、二種、高さ四十種位これに限らず、幼児のこび越せる程度のもの（の箱を跳び越す遊びである。年長組に適當であらう。箱は倒しても足にさしさわりのないものにした。これも助走距離は可なり長く、その間は全速力で走る事が大切である。又、川さびと同様、競争にしてもよい。



ハ 川さび山  
越し  
少し廣い場所であるなら、最初川をさび次に

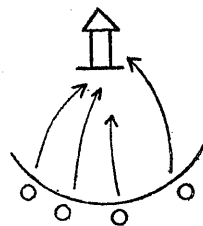
山を越して来る様、二つを組み合はせても面白い。

この様にして一人で跳ぶにしても、競争の場合にしても、跳びつばなしでなく、後まで定まつた位置に着いて

再び自分の順を待つ態度に注意しなければならぬ。

投 投げる事も、身體的效果に就いてみれば、肩帶の筋肉、

臂の力、胸部を發達させる爲に、又そればかりでなく、やはり全身的によい運動である云ひ得よう。これは次の様な遊びにして取扱つてみた。



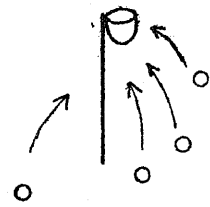
イ 球投げ 積木で幼児の背丈程の家を建て其處を目がけて、約五米位、離れた位置から、布で作つた球をぶつける遊び。

投げる位置から目的物までの距離は、五米位から次第に遠く離す。その場所に線を引き、五、六人づゝ並んで一人宛四、五箇の球を持つてぶつけるのである。次の者は、その球を拾つて、同所から投げる様にする。或る距離を一定の目的物目がけて投げるのであるから、體力と共に、注意を集中し、精神を統一しなければならぬ。幼児自身に當つた数を数へさせ、成るべく多く當る者を優秀な者として奨励する。

ロ ダルマ落し 積木の上にダルマをのせてそれに球をぶつけて落す遊び。

一人づつぶつけても、或は赤白二組に分れ、ダルマも二箇用意して、早く落す競争にしてもよい。

ハ 源平球入れ 約二米の棒の先に籠をつけた物を真中に



取扱つても面白い。

**懸垂** 懸垂運動も云つても様々な運動が考へられる。高鐵棒にぶら下つたり、廻轉をしたり、鐵棒の上で臂を立て、體を支へたり、又二本の平行棒につかまつて、全身を持ち上げる運動、或は低鐵棒で逆上りをしたり、廻轉をしたり。懸垂運動の身體的效果も云ふならば、肩、臂、上體の筋肉を強くし、身體の巧緻性を養ふものであると云ふ事が出來よう。子供は低い鐵棒に下つたり、ひつくりかへつたり(臂立前方廻旋)、逆上り(足掛逆上り)をしたりするのが好きである。よく廻れない者には、私共が一吋兩手で背中を支へて前方に押す様にするに樂に廻る事が出来る。注意して鐵棒等の機械を使用する際には怪我をしない様、その近くにある適當に補助しなければならぬ。地面上の石ころを除いたり、土があまり固い時には、マットを敷くとか、運動の前には準備が必要である。

よくあるダンゲルも、登つたり降りたり、鬼ごつこを

したりするのに面白い遊具であるが、たゞ上から兩手で下がつて、成るべく長時間そのまゝの姿勢でゐる練習をするだけでも、立派な懸垂運動になるのである。

**平均** 平均運動は字の通り、身體の平均をこる爲の修練になる。こゝでは橋渡りの遊びによつてその練習をすることにする。

**イ 橋渡り** 高さ四十浬位、幼児の足幅より少し廣い幅の箱の上を渡るのである。短い箱ならば、幾つかつないで、三米位の長さにした。平均臺があれば尙結構である。

最初はたゞ落ちない様に氣をつけて、そつと渡るだけでよいと思ふ。五回でも十回でも、橋になれて充分落ちない自信がつく迄繰り返して渡る。これは靜的ではあるが強い運動であるから渡る時は、落付いて、靜かに、ゆつくり渡る様注意する。

その後次第に渡る時の姿勢にまで注意を促し、凡そ目の高さの所を見、體を眞直ぐにして渡る事に氣をつける。

平均臺や箱を使用する際にも用具の取扱ひ方に注意し、落ちそうな時には、平均臺をおさへるか、幼児の體を支へるかによつて、危険のない様、補助しなければならぬ。常に用具の側についてゐる用具に對する恐怖心を起させない様にした。

ロ、その他の遊び



細い物を渡る事になれば、その上で色々な遊びが考へられる。

ジャンケン遊び——は二組に分れて平均臺の兩端に向き合ひ、兩方から一人づゝ橋の真中まで出て来てジャンケンをして勝負を決める遊びである。

落しあひ——同様、二組に分れて平均臺の兩端に並んで向き合ひ兩方から橋上に進み出て、下に落しあひをする。尙、遊具を使用する場合には、成るべく同時に多くの者が活動出来る様、用具の數を増し、人數を適當に分けて行つた方が、時間的にも個人の運動量からも經濟的である。

**運搬** 重い物を持つて相當の距離が行けることは必要である。體力と共に忍耐力を要する。幼児にぎの位の荷物が持てるかを考へ、砂袋を持たせてみた。

イ、砂袋はこび

用具、重量約六疋の砂袋 或は、この重さを有する持運びに便利なもの。

最初は六疋の砂袋を持つて、約十五米位の距離を往復することにした。

持ち方は、兩臂にかゝへても、下げてよい。

始めは一人づゝ行ひ、次に二組の競争にして取扱ふ、一層活氣が出る。

六疋であるに競争の際にも樂に持ち運び出来るので、そ

の次に幼児の最大限度の力を出し、しかも、苦痛を感じない重量はぎの位であらうか。實際に持たせたところ、大體この二倍の十二疋であつた。けれども勿論これは、幼児の年齢、身體の發育狀況にもよるので、その點充分考へて大體、體重の半分より一、二疋少ない位が適當ではないかと思はれる。それから二個を持ち、最大能力を測定する場合にはその物を下げて運ぶ様にした方がよい。それは、かゝへるのこ、下げるのこでは、感じが違ひ、かゝへた方が容易であるからである。

ロ 障り物を利用した競争

前に川さび山越しを行つたが、更にこゝで應用して、川をさび越して向ふにある重い荷物を持つて來たり、荷物を持つて山を廻つたり、幅の廣い橋を渡つたり、様々に工夫し、組合せて、もつこ面白く、そして體育的な運動が、考へられると思ふ。尙、荷物には、持つのに便利な持ち手を忘れないでつけておく。

この様にして、運動の基本形式である歩、走、跳、投、懸垂、更に平均、運搬力による遊びを、つまらない例をこつて考へてみました。が更にもつこ興味あり、そして體力を養ひ運動能力を鍊る體育的な遊びを研究したいと存じます。

講習會の講義

# 感・じ・た・ま・を

## 保 姆

陸に海に華々しい戦果を報導される度に皇軍にさゝげる感謝の念はいつも反撥的に自分等の受持つ職場の反省に變つて來るこの頃でございます。聖戦完遂の爲に銃後を守る一億國民の總てが同じ思ひに責任を感じ合つては居りますものゝわけても私共保育者に課せられた責任の重大なことを感じ……今更ながら聲を大きくして「緊張々々」を叫び度い様な氣がいたします。

皇軍の戦果が南に北に繰り擴げられて、我本土の何倍になるのやら？豫想もされない現在、やがて成人した曉、世界に廣く我大日本帝國の領民として遠く海外に發展し、又他國人の指導者たらん志す者の多く屬出するであらう將來に對してその子供等の現在がどんなに護られて生活して居るので御座いませうか、幼稚園、又は託兒所に收容されて、保健に躰に心を配られて成長して居る者が日本全土の幼児に對して何割で御座いませうか、實に考へさせられることで御座います。多くの幼児が最も大事な幼児期をたゞ自然の發育のまゝに放任され、ここに都會地の子供等

は遊びに、保健に、躰に、現在では生活環境のすべてに何一つ恵まれないで過して居る者が多いのではございませんでせうか。

國を擧げて「生めよ殖せよ」の人的資源の確保に大重なり、その爲にはいろいろの制度が新しく設けられて、母子保護法等は大いにその實もあがり、安心して「國の寶」を護つて行かれるべき嬉しい時代に……幼児教育のみぎうして義務制になり得ないので御座いませう。こゝ拾有餘年保育の義務制を目ざしてあらゆる機會に當局を「ゆすぶつて」下さる大先輩の方々の大いなる御努力も報ひられず、今以つて異端者に見られて居るのは何に原因して居るので御座いませうか、勿論國家としては此の多事多端な折、いろいろ定むべき制度の順序もあることゝ存じますが……數年前に比して見れば非常に幼児教育も普及發達して、ここに現在では都會地など社會一般の人々からは必要にさへ迫られて收容しきれぬ幼児の處置に困る程になつたことは非常に喜ばしいことで御座いますのに、かへつて教育の

重要な位置に居られる方々の中に未だ保育效果の充分うなづけない人々の多いことを感じて幼児教育義務制の出足を引き止めて居るごころの一つではないかさへ感じられ残念でなりません。

過日もある會合で、教育の元締めさもなる位置の方から「現在の幼稚園はフレールベルの意を體して創設されてから七十年、今以つて大した變化もしてゐない」と云はれました時には、いさゝか腹が立ちまして「少し認識不足ではございませんか」と言葉返して見たいと思ひましたが、又心のごころかに「さうかしら？」と反省すべき餘地を求めて心を落ちつけました様な次第でございます。

考へて見れば明治、大正、昭和と、時代を變へるご同時  
に保育材料の内容も、その取扱ひ方も實に非常な進歩發達  
をして來たことは事實でございますが……時には私共自  
身でさへ、なにか物足りない感じ、行き詰つた感じ……  
のやり場に困るごころが御座います。私共でさへ「保育效果の  
科學的立證によつて何か安心をしたい」との氣持ちは始終  
繰りかへされて居りますもの……他の方面の方々に、う  
なづいていたゞけないごころのあるのは無理もないごころ存  
じます。

又あるお役人に配給のごころをお願ひに出ましたごころ  
「パパ、ママと呼ばして居る家庭の子供は配給を心配せず

も品物は上手に手に入れて居るよ」と一言のもごにはねつ  
けられてすく／＼引きさがるやうな現在、「さう云ふ子供の  
大勢居る所が幼稚園なり」と認識を誤らせるやうな「空氣」  
がかすかなりごも現在の幼稚園のごころに残つて居るので  
は御座いませんでせうか。園の經營に、保育の内容に、否  
保母の態度に保護者の様子に……少しでもそんな「くさ  
み」を感じさせるごころがあるのではございませんでせう  
か。

小學校が國民學校に改められる時、やがては「國民幼稚  
園」にして義務制を認められる時を想像して、いろ／＼保  
育の内容に再検討をなしつゝ純日本精神によつて保育の使  
命を果さうご各方面の調査研究が進められ、保母等の修養  
ごしても實に多くの努力が積まれて來ましたごころは事實で  
ございます。ここに大詔を奉戴して以來は我が帝國に生を  
うけた喜びが一日々々々を感謝の氣持ちでこの保育道に精進  
させて下さつて居ります現在、私共の心がまへは充分新體  
制になり得たつもりであつても、幼兒の上には表はず具體的  
な實踐、實行にあたつて未だ努力が足りないのではござい  
ませんでせうか。改めて反省の必要があるご存じます。そ  
して又ごころに、七十年の傳統から「ぬけきらぬ」所謂「幼稚  
園舊體制のくさみ」が残つては居らないで御座いませうか。  
庭のあちこちに……保育室の隅々に……保育内容に……

あるくくく一つ二つ拾ひあげて見ても、……

◎幼稚園の遊具は、スベリ臺にブランコ、杵登りに太鼓橋  
ききめこんで、入園當初の遊びで、満了の頃の遊びに何  
の變化も與へられない……なんて心配はございません  
でせうか、今の子供に要求する精神力の「がんばり」に相  
當する「體力」の養成もなる遊び場の改良は？遊びの工  
夫は？

自由遊びの内にだんくく體力を造つて行けるやうに工  
夫したいものでございます。資材不足、人手不足の時に  
あたつて實に困難なここではございませう。

◎はしから、はしまでぎつしりぎ行儀よくならんだ机、玩  
具等は幼児の手の届かぬ棚の上に整理されて……こん  
なここがまさかと思ひますけれど……

◎充分に陶冶され得る年齢に達しながら、ここさら陶冶せ  
ずにおくここを以つて個性尊重も考へて居たり、未文化  
のまゝを保持させるここが「幼稚園らしき」考へを誤つ  
て居られる若い保母さんは……反對に羨々も考へて、  
所謂著のあげおろしにまでも細か過ぎる作法の「型」を強  
請して居られる老人保母さんは……

◎昔程ではないにしても、幼稚園の遠足にはいつもきれいに  
着飾つた母親達のお花見風景？ここに母の會等の集り  
にはお芝居見物？と思はせるやうないでたち……

こんなところが「幼稚園不必要論者」の目をつけてゐるこ  
ろではございませんでせうか、今までもさかく問題さ  
れましたのは保育の内容ばかりでなく、案外見當違ひな  
こんなところにあつたここはいろくくの折に感ぜられて  
残念に思つて居りましたが、ここに最近では我が子可愛  
さのあまりの買留め、闇、「家にはいろんなものが一ぱい  
あるよ」ミ子供等が平氣で口にする様な状態を見せられ  
ては、あらゆる方面に涉つて「母親再教育」が私共に課せ  
られた「現代の義務」の一つも考へて、こんな方法を、考  
へたらよいものやら……

いろくく拾ひ集めて見ればあちこちに際限なく考へ及  
ぶ反省の數々を、手近なところから一つく「必ず」片付け  
て行かねばならぬ問題も感じたまゝをのべさせて戴き  
ました。  
(一七、一〇、一)

### 草野京子氏の御退職

本郷第一幼稚園長草野京子氏(舊姓楡山)は去る八  
月、二十九年間の長い保育生活より御退職になられま  
したので、お名残りを惜しむ會が、東京市保育會の有  
志によつて、十一月七日午後一時半より本郷第一幼  
園に於て開催せられました。參會者多數。  
惜しむ言葉、去られる言葉、どちらも誠に惜の籠つ  
た御挨拶にて參會者一同深い感銘を受け、和やかなで  
ございました。(編輯係り)

## 各地幼稚 園便り

### 東京 感應幼稚園

青柳 義智代

- 一、園児數 二百五十名
- 一、組の編制 六組。月、花、雪、(年長組)  
星、森、山、(年少組)
- 一、職員數 十名(園長一、主事一、組擔任六、給食主任一)
- 一、保育料 參圓五拾錢  
他材料費五拾錢
- 一、母の會 會費 各學期金壹圓也  
事業 齒科治療事業、講演會、見學、給食當番
- 一、給食 一ヶ月約二十日の給食と概算して、金三圓五拾錢  
也納入、保育日數(學期始又は終)少なき月は其都  
度概算す

二十餘年前までは驛前の廣場には荷馬車が竝んでゐた事、そして運送店のみが印象に残る淋しい新宿驛であつたが、近頃は素晴らしい躍進發展にて、交通量の上からは全東京で一、二を争ふ繁華

な新宿驛に一變してしまつた。驚くべき變化である。而して新宿は昔から甲州街道と青梅街道の分岐點で、武藏野を横切つて、淡々として西に延びてゐる二大街道は此處から分れてゐるのである。さて、感應幼稚園は、その街道の一つ青梅を約十丁程來たところに、設立されてゐる。

今年で設立されてから十七年目、まだ年齢ならば漸く青年期と云ふところが、建設期、成長期にある年代であつて將來あるものと信じてゐる。既に五、六十年の園歴をもつてゐる幼稚園もあるから、本園十七年の歴史では甚だ幼少にして、語るに足る何ものもないと思ふが、然し乍ら創設以來から具に其の足跡を顧ると相當の變遷を經て來たものと思はない譯にゆかない。

その環境から見ても、幼稚園地續きの寶仙寺山内の森もこの十七年間に一變してしまつた。嘗つては、どなたも、「大森林です」と幼稚園の窓から眺めて感嘆して下さつた鬱蒼とした杉の木も、急速に延びて來る大東京の煤煙と塵埃とを被つて、次々に枯死してしまひ、今はまつたくその梯を止めぬまでに減びてしまつた。そして杉の樹間にかくれてゐた樺が杉にとつて代つて、我もの顔に繁茂して、今ではすっかり樺の森に變つてしまつたのである。

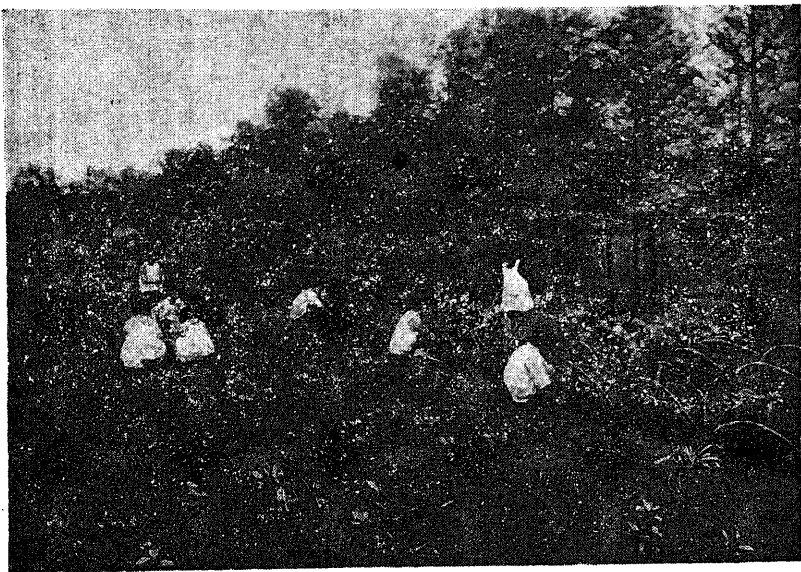
本幼稚園も寶仙寺の林相の變遷に劣らず、外觀に、その内容に一變する程の變遷を過して來たと思ふ。十七年前に殖民地の開墾小屋のやうな貧しいバラック建に感應幼稚園の標札が掲げられ、風雨、寒暑の激しい度びごとに心配したり、四十名位な子供を迎

へるのに相當、苦勞した頃と思ひ合せるとき、現在選ばれた二百餘名の園児を擁し、防火壁を有する園舎をもつ今昔の園の姿に、感慨に堪えないものがある。

そして其の頃を思ふとき、いつも乍ら共働者として一千坪に近い園庭の草とり、庭掃除から、便所掃除、水汲み、湯沸しまでいとはずに働いて下さつた職員に對し、感謝の念に頭がさがる思ひがする。背景に大寺院寶仙寺が存在してゐて呉れることはその據りどころとして誠に心強い限りであつたが、本園の今日の生長は寺院の助力のみではなく、實に今日までの共働者の獻身的な協力と、そして本園の教育を贊助せられ、陰に陽にお援せられた母の會員の力もまた強大であつたことを感謝と共に懷想する次第である。

× × ×

本園は、つとに宗教教育として祖先尊崇の教育に力を注いで來た。祖先を尊び、崇ふるは日本精神の華であつて當然のこと、特色として述べるまでもないのであるが、相手が幼兒である所以を以つて、何かと意見がないでもなかつたが、爾來信するところあり創立以來一日も缺かさず祖先尊崇の行事を毎朝繼續して來てゐる。園庭に於ては神社、園内の佛壇に對する行事が即ちそれであつて、毎朝森を通つて集まつて來る子供が九時には全部揃ふので、レコードの行進曲の奏樂を合圖に、園庭號令臺の前面に二百餘名の園児は各組別に縦隊に整列する、そして朝の行事、宮城遙拜、神社拜禮、國旗掲揚、ラジオ體操、行進遊戯（渦巻竝體型行進）



「庭 い じ り」

など整然と行ふことに努めてゐる。神社は幼稚園の神さまとして園庭中央正面に奉祀してあるので、毎朝園庭の行事として神社を拜禮させてゐる。尙佛壇は園舎内に設けられて、やはり園の佛さまとして、庭の行事終つて後、入室させて佛壇に對して必らず合掌の行事を續けてゐる。尙神佛に對する本園の考へ方を簡単に述べるならば、神社は公けの祖先をおまつりしてあるところであり、佛壇は個人の祖先をおまつりしてあると思つてゐる。祖先をおまつる意味からは公私共、相通じてゐる。而して個人の祖先をおまつることにつき意見を唱へるものもあるが、日本人として通有する生活傳統から眺めて、車の兩輪の如く少しの矛盾もなく各家庭に於てまつられてるのであつて、神を尊崇すると同時に、最も身近い一家の祖先である佛をおまつり得ないことは日本人として缺くところあるものと考へてゐる。就ては、神をおまつる心を育てると共に、佛を尊ぶ心の涵養に極力努めてゐる次第である。

而して、神佛は單に飾るべきものではない、誠を致し、儀を正し、供物を供へ、祖靈を慰むる、嚴肅な信仰的な精神を以つてまつるべきものである。其の意味に於て本園に於ては園庭神社の建立並御祭神についても慎重を期したのであつて、御祭神は遠く旅をかけて、大神宮に直接參拜し、親しく大麻をお受け致し嚴におまつり申上げた次第である。そしてその日から、全職員が身を以つて神宮遙拜所としての神社をお守り通すべく日夜お社を聖域として尊崇を期してゐるのである。この信仰的な精神と態度なくして單にお飾り申上げたのでは、教育としての效果至つて薄弱ではない

かと思ふ。また、飾るべきものにあらず、まつるべきものにつき、嚴肅な態度を缺く場合は神への冒瀆でもあると信じてゐる。而して、毎月一日は園庭神社のおまつり日と定め、神饌をお供へして、各組別に二拜二拍手の拜禮を以つて參拜することに定めてゐる。

× × ×

保育の新體制として練成養護に力點を措くことは既に申すまでもないこと、そのために充分の研究と努力を拂はるべきは、保育者として國家の要望に忠實なる所以と信じてゐる。本園に於ても、保育の新體制に即應するやう日々努力をおしませ邁進してゐる。その一つとして兩三年前から、園児の體力測定を始めて、現在も毎月續けてゐるが、感ずることは子供の遊具並その遊びに對する興味も、ブランコ、滑り臺と必らずしも固定してゐるものでなく、變化しつゝあると云ふことである。三年前測定を始めた當初は、懸垂、幅跳なども一般に興味は薄く、従つて先生の指導で他動的な態度で行つてゐるに過ぎなかつたのであるが、近時は、國民學校體練の影響からか、本園の指導の成果からか、執れにしても非常に興味を生じ、自ら進んで懸垂に遊び、幅跳びを競つて遊んでゐる。子供は今更乍ら白紙であり、その指導如何で遊びの興味さへ變へられ得ることを痛切に感じてゐる。就ては健康並體力の充實のため、遊具に對しても、運動具の指導に對しても新しい考へ方で再検討の必要を感じてゐるのである。尙、本園児は一千坪の廣い園庭で駆け廻つてゐるので、活動力は極めて旺盛につき、運動具も一般より大型であるのが特徴、幼児の運動具としては規格外

の寸法もないではないが、園児の活動力、體力が基本となるべきものにつき、必ずしも寸法に據らなくとも危険はないと思つてゐる。また運動具の構造や形が極めて素朴である。童話の世界から抜け出したやうな形態よりも、子供は自然、素朴なものを好み、また興味も永續するのである。教育上から考へても素朴自然なものに美しさを、また童話を感じて呉れることを念じてゐるものである。

X X X X

保健養護の特別の施設として、園藝と給食がある。園藝は園庭内に花壇並菜園を經營し、専ら勞作及觀賞、觀察用として活用してゐる。現在晩秋の花壇には眞紅の葉鶏頭が目覺めるやうな色彩で輝き、遊戲室に立つと外庭の眞紅の反射で顔の色も赤く染まるのが見受けられてゐる。花壇はなんと云つても春先きが美しい。チューリップ、水仙、櫻草、花芝の満開の頃が豪華である。野菜園では稻なども試作してゐるが、主として野菜で先日も三十本許り植付けておいたさつま蒔かりを大賑はひで實施したところである。

特に本年は南瓜の當り年で四十個許りを收穫して給食用として割烹室に提供した次第である。近頃は隣組菜園の經營が盛んになつたために、日頃食膳で親しんでゐる野菜の生育状態も容易に觀察出来るやうになつて來たが、都會の子供はおかしい程その智識に疎い、例へば芋など初めから水洗ひした、店頭に並んでゐる綺麗なものがなると考へてゐるので驚いたことがある。また園藝を實施して勞作の尊さをいらくと考へさせられることが多い。花など

も好む人は多い、然し好むのは單に綺麗なもの、品物として好むのであつて、往々腹が立つ程手荒で、粗末無様な取扱ひ方をしてゐるのを見受ける。花も野菜も、精根を傾倒して育て培ふ人は、決して夫れらは物質ではない、いとしき生命あるもの、尊き生あるものであつて、疎略な扱ひ方など出来るものでない。斯うした自然愛の氣持は理窟ではなく、たと園藝の體驗から生れる感覺とも云ふべきもの、幼き心にこの心持を育成し度いと念じてゐる。そのためには先生自身が、その體驗を持つてゐる事が第一に必要であり、またその保育指導にも組織的でなければいけないと思ふ。種まき一つにしてもたと種子を配り、先を争つて無駄にまき散すやうな不用意な園藝ならば、初めから實施しない方が望ましいと思ふものだ。なぜならば一層粗末に扱ふ習慣を徒に育てる結果に終るからだ。

X X X X

給食は物資統制の時代に拘らず、公益事業のために割合に便宜を與へられて、本日まで一日も滞りなく繼續して來た。また幸ひに今後も繼續出来ることを深く喜んでゐる。豫め線香花火式に終つてしまはないやうに、慎重考慮して着手した甲斐あるものと思ふ。組織、方法等は度々發表してゐるので、今度は最近の十月第二週の献立表を掲げるにとゞめる。

十月献立(第二週)

感應幼稚園給食部





一、姉妹後援會は、市内國民學校のごこよりも一番先に生れ出まして、新築工事、グラントピアノ購入、保育所新築、講習會、母子遠足、見學と兵隊さん慰問にと常に大きいお仕事をなされておられます。何よりの大きい力で御座います。



丈夫な子供さんとなりませぬにほんな苦勞をしてもいとひませぬ。總ての考へ方をそこにおいて保育を始めます。微力な

各地幼稚園便りの紙上にて拜見致します様な立派な設備も持ちませぬ。立派なお道具類も備へておりませぬ。唯、子供、の私、子供大切に念じます私には、幼い人達への良いお友だち、よいお遊び相手になれませぬ様に朝夕に祈つて行きます。お國の要求なき様な立派な子供さん、御國の切望なきる

女手に經營する爲に、いろ／＼意に委せぬ重荷も澤山に御座いますが、決して自我に生かぬ様に、名の爲に尊い子供さんをこねないやうに、ご迄も縁の下の力持が、泪の母の尊い力で御座います様に私達保母はとほ／＼先の日に立派に成人になつて御國の御用に立ちなされる方達へのお力添へになる事が大切な仕事だと信じております。與へられました保母の一人々々の良い力を出し、助け合ひして進んで参ります。

そうしてこそ、大きい戦果のかけにかけた、大きいお力をなさる兵隊さん達へのせめての心づくしも出来て参りませうと思ひます。

絶へず中央の先生方の正しい幼児保育に、幼児教育方法に御指導を受け、正しい保育思潮に遠くおし流されぬ様に、自我に生かぬ様に努める事が内地でも中央から離れてゐる者の考へねばならぬことと思ひます。

ハトポツポの幼児體操一つも決してい／＼かげんなリズムやいゝ加減な運動に考へたりなにかしないで、折角に立派な先生方の御精神を亂す様な事のない様に務めて参ります。古葉書一枚の利用も御指導を受けましてそれ／＼に又研究し、保育の實際にお役に立ちますやうに致して参ります。

文化におくれ勝ちな田舎でも、御國に御奉公致します上からは少しもおくれを取らませぬ。

都會の幼稚園よりは餘程恵まれた自然の中におかれて、風光明媚な瀬戸内海に面し、野原も近く、山も河も清く幼児達を暖かく

くるんでくれております。

幸に創立十五週年間、次々と研究的な保姆を興へられまして現在の様に人手の少ない時代にも四人の幼稚園保姆は、保姆科卒業生ばかりで、不慮の努力をつづけて参ります。

家庭的な園として誰一人功名顔もせんで、御子達大事と毎日楽しく過して行きます姿が嬉しく見えます。十五年間大した蹉跌もなしに過して参りました。生れ出る苦しさ、育て上げる苦しさ、そうして尙此上伸びて行かうとする建設も大變だと思ひます。何くれ園のおひたち御世話下さいました方々へ御報恩の爲、常時ならぬ現在一層心して道を歩みつゞけたいと思ひます。

幼稚園の他に、昭安幼稚園の姉妹園として昭安保育園の經營を致して居ります。重工業方面へお母様が働かれる爲に、近頃大變に園児が多くなり、又使命の重いことを痛切に感じて居ります。

#### 昭安保育園規定

一、満一歳以上學齡迄の幼児を預つて心身の發育に應じ教育的衛生的に保育致します

二、午前六時から午後六時までお預り致します

但遲參早引は差支へありません

三、中食は御持たせ下さい午前午後の間食はこちらで適度に差上げます

四、毎月第一第三日曜と祝日と地方祭とはお休みです

五、保育料は一日七錢(間食料を含む)で出席日數に應じて頂きます

六、入園手續は御來園の時に致します

尙ほ創立滿十五周年記念事業として、本年度特に短期に保姆養成を試みました。十名の定員に致しましたのに、三十五名の志願者があり困りましたが、豫定通りの十名でいきました處、豫想以上に良成績の上、縣教育幼稚園保姆檢定受驗成績よく、修了者は全部それらの保育所で心から喜んでお務めして居ります。

今の時代、とや角と論ずるよりは先づ實行をとな念じながら、日な幼児の爲にと過して居ります。至らぬ者の爲にこの上の御指導を祈りつゝ筆をおきます。

#### 「國民保育のために」

保育問題研究會編

帝國教育會出版部發行

(東京市神田區一ツ橋二ノ九)

定價 二、八圓 送料 〇、二四

本書は、保育問題研究會の會員の方々の研究、調査を纏められた報告書である。全篇に漲る保育研究への熱意は誠に敬服すべきもの。保育道へ携はる者の是非一讀しなればならない本だと思ふ。(編輯部)

## 兒童心理學

(第九講)

牛 島 義 友

## 劣等兒の問題

幼稚園、學校に於て手をやく問題の子供の一人は劣等兒、低能兒である。特に學校に於ては教師等はこの人達の爲に最も悩み、心を勞してゐる。普通國民學校の三年位になつて今迄人並に出来ると思つてゐた自分の子供が、期待に反して成績が好ましくなく、教師から注意されたりして騒ぎ出すものである。而して其場合の父兄の態度は、家庭教師をつけたり、特別の指導をするから、何さかして今までの組に置いてもらひ、兎に角卒業だけはさせて欲しいと懇願するのが普通である。特別學級等の親切な制度を設けても、父兄は餘り喜ばず、そんな處に入つて低能兒の刻印を押される事なく、子供が分つても分らなくてもよいから只卒業だけはさせてほしいと考へる。

斯る態度には充分同情す可きものがあるが、眞に子供の事を思ふならば、世間體等に捉はれずに出来るだけ早く特別の保護教育を行ふ可きである。馬鹿につける藥はないと

か、精神薄弱は治らないものである等の考へから、彼等の教育に疑を持つ人もあるが、併し教育によつて、彼等の能力の足りない處を補ひ、彼等の不幸をくひ止める事はいくらでも出来る。彼等は智能が低いただけでなく、それが原因して、劣等感を持つたり、歪められた性格、狭い世界に住む様になり、益々社會生活から取殘され、敗殘者になつてゐる。彼等に少しでも自信を與へてやるならば、斯る性格的な禁壓から解放されて、自分の能力だけは自由に發揮出来る、今までより遙かに幸福な生活に移る事が出来る。愛育研究所で特別幼稚園を設けてゐるが、其結果は極めてよく、其卒業生は今國民學校に於て必しも劣等生にならず、中位の成績で、愉快な學校生活を續けてゐるものもよくある。

故に劣等兒や低能兒に對しては頭から匙を投げてかゝらずに、常に同情を持つて指導する必要がある。尤も低能兒(精神薄弱兒)の教育の爲には特別な教育を経験を持つた教

師が、特別の學校や施設で教育しなければ効果が上らないから、問題外として、茲では所謂劣等児の問題について考へる事としよう。

智能指數で言へば七十以下を普通精神薄弱者と言つてをるが、七十以上でも尙學校生活が巧いかず問題を起す者がある。即ち七十から九十位の者が今問題になる劣等児である。普通この程度の者は二十一％位あると言はれてゐる。斯る人達は特別學級に入れる程の事はなく、指導さへよければ、國民學校を無事に卒る事の出来る人達である。併し指導が悪いと教室の妨害者になつたり、教授に手古づつたり、或は子供自身激しい劣等感を持つたり、それが原因で不良化する事も多い、一番始末の悪い、所謂問題の子供となる者である。

學校に於ける劣等生とはこの智能指數のみによつてきまるものではなく、智能が普通であつても、他の理由から劣等生扱ひにされてゐる者も多く、又都會の選ばれた學校に於て劣等生とされる者も、田舎の學校に行けば中位の成績を樂にされる事も多い。普通田舎の子供の智能指數の平均は八十五から九十位と考へられるから、都會の八十は劣等児であるが田舎では普通となる勘定である。尤も都會の八十の子供は充分磨かれ教育された八十であり、田舎の子供は荒けずりであつたり、發達が阻害されて示す八十である

ので、同一に取扱ふ事は許されないが。

都會の學校に於て所謂劣等生の生ずる原因はどんなものであらうか。今教師の報告による原因を示す次の如くなる。この原因は必ずしも正しい原因と言ふ譯ではなく、眞の原因は他に在る事もあらうが、一應教師の判斷による原因をみよう。(之は米國の調査で七五三一名の落第生に於て行つた。尙二個以上の原因がある場合もあるので、百分率の合計は百とはならない)。

原因	百分率	原因	百分率
學習が極めて遅い	三六・七	家庭不良	一〇・〇
勤勉さ、注意を缺く	三五・五	病氣以外の缺席	八・五
學費不足	二二・五	不健康	五・二
轉校	一七・八	視力不充足	二・三
病氣缺席	一六・七	其他の身體的缺陷	二・一
言語の相違	一三・〇	言語失陷	一・八
智能缺陷	一二・九	聽力缺陷	一・〇
未成熟	一二・七		

この原因の中、言語の相違等は日本内地の場合には常嵌まらないものであるが、其他の點では参考になるかと思ふ。之等の原因を纏めてみるに、子供に關した原因と、學校に關した原因と家庭環境に關した原因に分ける事が出来る。これ等について詳しく考察する。

一 子供に關した原因、第一は智能である。前の表の中

の學習の極めて遅いものや、未成熟等も恐らく智能が弱い爲に起つたものであらう。智能の弱い子供は特別の教育指導や努力をせぬ限りさうしても普通の子供に遅れる。今理論的に計算してみるならば、國民學校八年を卒る頃には、智能指數七十の者は五年遅れ、八十の者は三・二五年、九十の者は一・四年遅れる勘定になる。

次に身體的缺陷が屢々劣等生を作る原因となる。視力、聽力不充分、榮養不良、心臟病、結核、不具が主な原因である。故に定期的身體検査が必要である。視力、聽力が弱い事が數年間氣付かれなくて劣等な成績をこつてゐる者が、この缺陷に氣付いて適當な處置をしたら、たちまち成績が向上した様な例が屢々ある。

一、二の學科が特に出来ない爲に全體の成績が低下する事もある。例へば讀み方が出来ない爲に歴史も地理も理科も出来なくなる事がある。

性格的原因として、不良性之學業不良之が結び付く、これは何れが原因之言ふ事が言へず、成績が悪いので學校を嫌つたり怠けたりして不良になり、又不良になる此一層勉強がいやになつたりして、相互に影響し合ふものである。又内氣、怠惰、批評に反感、白晝夢、病的恐怖等の性質を持つた者は成績が悪いとも言はれる。

要領の悪い勉強の習慣、例へば一日中机にかかりついて

ゐる、絶えず注意を集中する事が出来ず、だら／＼と時間を通り、却つて能率が上らず、成績が低下する事がある。時間中先生の教に注意を集中し、後は遊んでゐても却つてよい成績を示す事が多い。之は單に頭がよいとか悪い爲ばかりでなく、勉強の要領の巧拙による事もある。

## 二 學校に關した原因

早生れの子供は初めは學習に困難を感じる。この頃の半年間の發達は後の一ケ年間の發達に匹敵する故に、早生れの子供は、特に智能が優秀でない限り、十ヶ月以上も異なる遅生れの者に對しては非常に劣つて來て、其爲に劣等視される事がある。

轉校 學校は單に一定の知識を受け取るだけの場所ではなく、同時に學友との社會生活に於て訓練される處である爲に、轉校は子供の學校生活を著しく混亂させる。特に學期途中の轉校はいけない。轉校の結果新しい學校を厭つたり、先生になつかなくて勉強が出来なくなる事も多い。又學課の進歩が異り、一ヶ月分以上も未知の部分がある子供には非常な困難感を與へて、それ以後の學習がよく出来なくなる事も多い。

缺席勝ちな子供も成績が低下するのが一般である。體が弱くて缺席勝ちな場合は、缺席の爲に授業に遅れるばかりでなく、病身の爲に氣力少く餘り勉強する事が出来なくて

成績が益々悪くなる。

三 家屋に關した原因 家庭の經濟狀態に成績は關係がある。家の經濟狀態に子供の智能にも關係がある。屢々言はれるが、成績には一層強く影響する。貧困者の中から極めて優秀な成績をあげる者もあるが、一般には成績悪く、ブーゼマンの研究では親が失業した爲に子供の成績が低下した事實等があげられてゐる。

以上の諸原因によつて成績不良な劣等児が出来て来る譯である。故に其對策としては唯補習教授をやつたり、家庭教師をつけさへすればよいと簡單に考へず、先づ原因を明かにし、それに對應した指導法を講じなければならぬ。智能が原因である場合は上述の補習や家庭での教育が有效であるが、この場合無闇に鞭撻して子供に一層劣等感を持たせる様な事が無い様に力め、少しでも自分に自信を持たせる必要がある。自信がないとやつてみようとの努力も湧かず、積極的に勉強しない。智能の弱い子供には努力が何より必要なのであるから、この努力の源である自分に對する自信をつけてやる事が必要である。

身體に缺陷があつたり病弱なものは自分を病人或は無能力者にしてしまつて、大事をこり過ぎ、積極的に出ようこしない。又斯る者に餘り鍊成的に臨むと體を壞す事も多い。故に無理に鍛へる事は避け、先づ其疾患を治してやる

事が大事であり、又不治のものであれば、例へば不具の場合には、それに基く劣等感に第一に注目し、この劣等感をよく利用して、積極的な補償作用に轉向させる必要がある。

性格不良の者は先づ性格鍊成が必要であるが、併し之も單に意志が弱い等と言ふのでなく、夫々不平、不満、劣等感等の心的葛藤を持つてゐる譯であるから、強壓的に臨むよりも、内から温い心でそのもつれを解いてやる態度が必要である。勉強要領の悪い者は、恐らく變つた態度をこる事が不安であり、少しでも遊んだり、怠ける此一層成績が低下するを心配して、遂に何も積極的に樂しむ事が出来ず、只ぐずぐずして日を送る様になつてしまふ譯であるから、積極的に生活指導をし、或は他人の生活を見學させた、環境を變へてやり、生活を取巻いてをる鬱陶しい空氣を除去し、心氣一轉さす要がある。

# 月刊「幼児の母」に就て

四四

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にもご、一昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう二年になります。

毎號甚だ不出来ですが、夫でも廣く各地幼稚園の御賛同を得て、月々々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

あんな小さいのですが、従つて内容も簡單至極のものですが、毎月一萬數千のお母さんに讀んでゐて貰へるご思ふご、大によろこんでゐます。ほんの四頁さいふのもの、忙しいお母さんの立讀みにもさいふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さるごこゝ、これが何よりなのです。

就ては、従來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新らしい方々にもお願ひいたします。尙ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたごこゝ、思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手数数の多いごですから、半年分なり一年分なりまとめて御注文下さるやう願ひます。當方でも印刷部數の豫めきまつてゐるごこゝが、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多いき思ひますから、四月を始めまして、四、五、六、七、三四ヶ月を一期、九、十、十一、十二、三四ヶ月を第二期、一、二、三、三四ヶ月を第三期としてまきめ

た方が御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢(一部貳錢)

○送料 十部まで三錢 二十以上送料不要

○十部以下の端數はおこまはりします。

一、御註文の節は部數ご何ヶ月分さいふごこゝ、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記し下さい。

一、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座(東京一七二六六番)をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會宛。  
序に甚だ立入つたごこゝのやうですが、御利用の仕組は(イ)幼稚園が保護者に無料で配布される場合、(ロ)實費を保護者銘々の負擔ごなされる場合、(ハ)幼稚園内の保護者會或は母の會等が費用の負擔をなされる場合等、その他いろいろの仕組があらうご思ひます。

充分御利用下さい。



# 大東亞戰爭必勝完遂

## 幼児の母



昭和十七年  
十一月

### こなり組

隣り組といふものは、時局以來の最もいゝ生活の一つですね。御近所に住んでゐながらも、お互同志何んの協同もなく、知りあひさへないといふことは、人間生活として餘りにも殺風景以外、奇怪極まることです。隣り組はそれを人間の世の中らしいものにした上に、それから起る生活上の利益も大きいものです。わけても、子どもの生活にとつて、近所といふものが與へられたこと、その結果、護られることにも、教へられることにも、誠に都合のいゝ便宜が多く與へられるやうになりました。

これは住んでゐる地域によつての隣り組です。その精神を採り入れて、幼稚園でも、同じ組の子ともいふことを縁にした隣り組があつてよきさうですね。子ども達は、しつかりお互同志の生活を毎日楽しんでゐるのです。その親同志も、お互同志の結びつきがある方が自然でもありませう。たゞ自然ばかりでなく、子どもを中心として話しあひ、或は何彼と助けあふこと、いろ／＼と楽しさもあり利益もあることでせう。幼稚園を信頼し、先生を信頼し、それを中心として互にいつしよになつてはゐるものゝ、我子の友達の親を、互に頼と知らないといふのは、考へてみれば變なことでないでせうか。子ども同志あんなに親しいのに。

### 幼稚園から

○厚着警戒の警報を出すことの必要な時が來ました。或はもう手遅れかも知れませんが、少くも此の月にやり損つたらば、一寸やり直しがむづかしいでせう。充分よく氣をつけて下さい。

○注意は大切ですが、けさは冷いとはかり、着物を重ねてゆくだけなら、責任よけの注意に過ぎません。そこをもう一つ寒さに勝たせる注意こそ、責任を以てする注意です。それは我子に就て一番の責任をもつ、お母さんだけに出来ることで、お母さんのしなければならぬ積極的注意といふものです。

○それにしても、十一月小春日和だといふのに、ぽて／＼と厚い重ね着で、うん／＼いはされてゐる子の、何んど多いことでせう。日あたりのいゝ庭へ遊びによこしながら、この位注意の足りない、母の無責任がありませうか。

戦時家庭教育心得 (三)

— 文部省指示要項解説 —

倉橋惣三

二 健全な家風

家庭教育は、家とする教育です。家がどういふ家であるかといふことが、第一に肝心なことです。その家が、といふのはつまり、その家の家風がといふ意です。ところで、家風は急に作ることは出来ませんし、況して、間におはせにといふ事は出来ません。その家のいつもの風なのです、いつも變らない風なのです。ですから長く續いてしつかりとしてゐるのでなくてはなりません。長くといふにも、先祖傳來といつた長いのもありませう。それ程でないのもありませう。いづれにしても、その家のいつもの風でなければなりません。

子どもが家の中に住むといふのは、家

屋の中といふよりも、家風の中といふことに大切な意味があります。家風のない家の中は、たとへば寒暑を凌ぐだけで心を養ふものではありません。家風があつても、若し悪い家風だつたら、それに染み、それに培はれて、不健全な心になります。家風の健全、不健全こそ、實におそろしい程、大きな影響を子どもに與へるものです。

さて然らば、どういふことが健全な家風なのでせうか。それは家々に特色のあることですが、文部省の示指では次の四つが重んじられてゐます。

- イ、敬神崇祖
- ロ、敬愛、親和、禮節、謙讓
- ハ、一家和樂

榮養 本位 子供向きお菜

厚生科學研究所 國民榮養部 佐々木理喜子

秋の稔りを傳へて食欲も旺んな時、鯖、秋刀魚等を用ひて榮養價の高い、しかも廉價な御馳走を作り體を丈夫にしませう。

【一】秋刀魚飯と大根卸し

材料 秋刀魚三五瓦 人參二〇瓦、牛蒡二〇瓦 大根四〇瓦 以上で蛋白質八・一瓦 熱量九五カロリー  
作り方 秋刀魚は頭と臟物を取去り三枚に下し二つに切ります。人參は一寸位の織切り、牛蒡は一寸位の笹がきにして軟く煮て砂糖、醬油で薄味をつけます。煮汁は少し多くして御飯に加へ、沸き上る時にお釜の蓋を取り、上に平に秋刀魚の切身を並べ、蓋をして普通の様に蒸します。御飯をうつす時に秋刀魚をよくほぐし、人參と牛蒡をよくまぜます。冷飯の時には、野菜を味付けた時に、秋刀魚を

## 二、隣保協和

いづれも健全な家風の要件です。つまり親は、子どもに如何に巧みな教訓を語つても、嚴しい禁を行つたとしても、先づ、之れ等のことが、その家庭の家風となつて、常に存し常に行はれてゐなければ、いゝ家庭教育をなし得ることは出来ません。すなはち、親としては、我子の教育を考へるに當つて、先づ、自分の家風を省ることが必要です。

ところで、是等の四つの家風の一つ一つの説明は省きますが、之れが皆、實に日本の國風と一致してゐるものであることは、よく注意しなければなりません。即ち、日本の家風は國風そのものです。敬神は實に、天皇に歸一し奉る所以、崇祖は、天皇に仕へまつれる祖先を祀り崇ぶ所以、でありまして、こゝに忠孝一本の我國特有の大道があらはれるのであります。ですから、各戸には必ず神棚を設けて、日常禮拜を怠らぬやうにすることが、日本家庭の家風の第一でして、この家風によつてこそ、日本人の特質が、い

つとなく、絶えず、家庭生活の中で、我子に涵養されてゆくのです。

日本人は皆、伊勢の大神宮様へ、心からの參拜に參ります。國の御先祖様への參拜であります。その、子どもの教育上意義深いことは申すまでもありません。しかし、國民皆が毎日、伊勢に參拜に上ることは出来ません。毎年參拜するといふ人はいくらもありませんが、毎日はそのれ業務もあることです。そこで、我家の神棚にお札をお祭りして、毎朝拜禮致します。これが日本人の毎日の國民としての家庭のおつとめです。他のことは、或は外國の家庭にも、それ〴〵美しい家風があるかも知れませんが、この忠孝一本の家風こそは、我が國の家庭にのみある家風であり、これがなくては、我國の家といへず、その家では、日本人の養成は出来ないといへませう。

前に述べました、我國の家の特質が、そのまゝあらはれて、我國の家の家風の特質となつてゐる譯です。

小さく切つて入れ一緒に煮て、後で御飯に混ぜます。大根は卸し、甘酢をかけて、青海苔をふつて小鉢に盛ります。

## 【二】鰯 井

材料 鰯四五瓦 青菜一五瓦 甘藷三〇瓦 青菜一五瓦 以上で蛋白質八・六瓦 熱量一〇八カロリー

作り方 青菜を細く刻みフライパンで少量の油を用ひて炒め、鹽味を付け御飯に混ぜます。鰯は二枚に開き頭、骨を取り、砂糖と卸し生姜汁を加へた醬油を少量用ひて浸します。二時間位經つて皿にのせて陽に當て浸汁を二回位かけて半日干します。之れを焼き井の御飯の上に形よくのせます。甘藷は一寸位の柏子木に切り水に酢を少量加へて煮、砂糖で味付けます。

## 【三】間食、干うどんの甘藷加へ

材料 甘藷四〇瓦 干うどん 二〇瓦 砂糖一〇瓦 以上で熱量一五三カロリー

作り方 甘藷を軟く煮、つぶして餡を作り、茹でた干うどんを一寸位に切つて加へます。

## 十一月の衛生

醫學博士 齋藤文雄

□小屋つゞき垣根垣根の黄菊かな

この頃の小春日和の暖さは何物にも換へ難い有難さです。さういへば流石に朝夕は露もしとゞに、蟋蟀の聲も聞かれなくなつて参りました。皆さんの御子さんも定めし身も心も張りきつてゐることでせう。皆な硬肥りに肥つて、つまむと弾ね反す位にピチピチしてなりませう。今月も病氣の事等餘り問題にならない時季ですが、そろそろ冬に向ひますので、その注意を書いて見ませう。

□うがひの練習は出来てゐますか。外に出れば埃り風が吹く、段々寒くなれば家の中に閉ぢ籠りがちになる、といふ様な事から、子供はうがひが上手でなければなりません。硼酸等只今中々手に入りませんから、お番茶の薄いのでうがひをさせれば、それで結構でせう。

□寒くなればなる程、日に當る事が必要

です。何時でも外で遊ぶやうに癖をつけませう。曇つてをいつも外で遊べば、いい空気を吸ふ事も出来ませうし、外氣浴も出来ませう。

□結核の事は餘り書きませんでした。が、今月は皆な健康な時ですから、この機会に取扱つておき度いと思ひます。

□先づ第一に御承知おき戴きたい事は結核菌が身體に入つたといふ事と、結核の病氣といふ事は違ふといふ事です。身體の中に結核菌が飛びこんで、それだけでは病氣とはいへないのです。身體が丈夫ですと何時とび込んだか判らずにゐます。それが何かの機会に發病する、それが結核性の病氣です。ですからツベルクリンの反應が陽性に出ても、それは決して病氣だとはいへません。既に結核菌が身體に入つてゐるといふ事が判る丈けで、現在結核の病氣かどうかといふ事は他の事も一緒に考へて判断するのです。

これを間違はぬ様にいたしませう。たゞ子供が小さい時はこの感染と發病が非常に近いといふ事はいへませう。

□肺門淋巴腺の結核といふ事は聽診器で聞いた位では細か事は判りませせん。一寸診て戴いたらさういふ事は判らなからと氣に病む方がありますが、それは早計です。先づ第一に反應が出るか出ないか、これが問題なのです。だから反應を見て貰ふ事です。若し陽性ならば、次に又線の寫眞を撮つて細かに檢べて戴く事です。今日は反應と寫眞と臨牀上の所見と、この三つが揃はなければ、簡單に肺門淋巴腺の結核であるといふ様な事は申せないので、尤も程度のひどいものは別問題です。

□結核性の子供に日光浴をする時は氣をつけなければなりません。少なくとも病氣が未だ活動してゐる間は、日光浴は却つて病氣を悪くする事がありません。若し行ひます時はお醫者さんに相談してからにいたしませう。

□やがて木枯が吹いて、早い地方は雪も見られませう。冬でも子供は積極的に、大人の消極的な考へから、子供の發育を妨げない様にしたいものです。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三  
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ  
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査  
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
  - 一、雜誌發行(毎月一回)
  - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
 會長 一名 會務ヲ總理ス  
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス  
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス  
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ヲ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジテ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定規文注

一、本誌御註文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)

一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何巻何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

不許複製 載轉禁

發行所 日本幼稚園協會  
 振替口座東京一七二六六番

東京市小石川區大塚町三十五  
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

印刷者(東京二五柴) 山 則 常  
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
 印刷所 倉橋 惣三 杏 林 舍

一ヶ月分	送金	拾五錢
半年分	送金	圓壹錢
一年分	送金	圓貳錢
拾貳冊	送金	圓貳拾錢
拾貳冊	送料	共

特等面一頁二等面一頁  
 金貳拾五圓金拾五圓  
 一等面一頁一頁以下  
 金貳拾圓御斷り

告 廣  
 神田區一ツ橋ノ七品田  
 廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)  
 昭和十七年十月二十八日印刷納本  
 昭和十七年十一月一日發行

幼児の教育 第四十二卷 第十一號

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可  
(毎月一回發行)

昭和十七年十一月二十八日印刷  
昭和十七年十一月一日發行

⓪

定價參拾五錢